



Title	「山上公学校沿革誌」：植民地台湾の教育史
Author(s)	北村，嘉恵
Citation	北海道大学大学院教育学研究院紀要，129，240(1)-187(54)
Issue Date	2017-12-22
DOI	https://doi.org/10.14943/b.edu.129.240
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/68104
Type	departmental bulletin paper
File Information	100-1882-1669-129.pdf



「山上公学校沿革誌」

植民地台湾の教育史

北村 嘉 恵*

解題

一、本稿の目的

【要旨】 本稿は、中華民国台南市の市立山上国民小学所蔵史料の中から日本植民地期に関わる学校沿革誌を翻刻し、台湾の地域史および帝国日本教育史の基礎史料の集積と共有化を進めることを目的とする。本稿でフォーカスをあてるのは、別稿で取り上げた「新化公学校」を本校とする分教場・分校・分離教室である。これら分校を前身とする、8つの国民小学（うち2校は廃校跡）の調査に基づき、個別の学校史を超えて〈地域〉における公立（総督府認可）初等学校存立の意味を捉え直していくための基礎作業を進めるものである。

【キーワード】

地域史 帝国教育史 学校史料 植民地化／脱植民地化 台南

本稿は、中華民国台南市の市立山上国民小学所蔵史料の中から日本植民地期に関わる学校沿革誌を翻刻し、台湾の地域史および帝国日本教育史の基礎史料の集積と共有化を進めることを目的とする。同校は、一九〇七年十一月大穆降公学校山仔頂分校として設置認可を受け翌〇八年一月開設、一七年四月山仔頂公学校（のち山上公学校）として独立、四一年四月山上国民学校、四五年八月日本敗戦・中華民国接收を経て、一九六八年山上国民小学として再編され、今日に至っている（表1・2参照）。本校所在地の大穆降（のち新化）の北東約八・五キロメートル、嘉南平原と阿里山山麓の接する緩やかな丘陵地に位置する（図1参照）。

別稿で記したように、筆者らは、帝国日本全域を視野に入れて教育史資料の所在調査・整理を体系的・段階的に進めるとともに、地域社

* 北海道大学大学院教育学研究院・准教授
DOI: 10.14943/b.edu.129.240

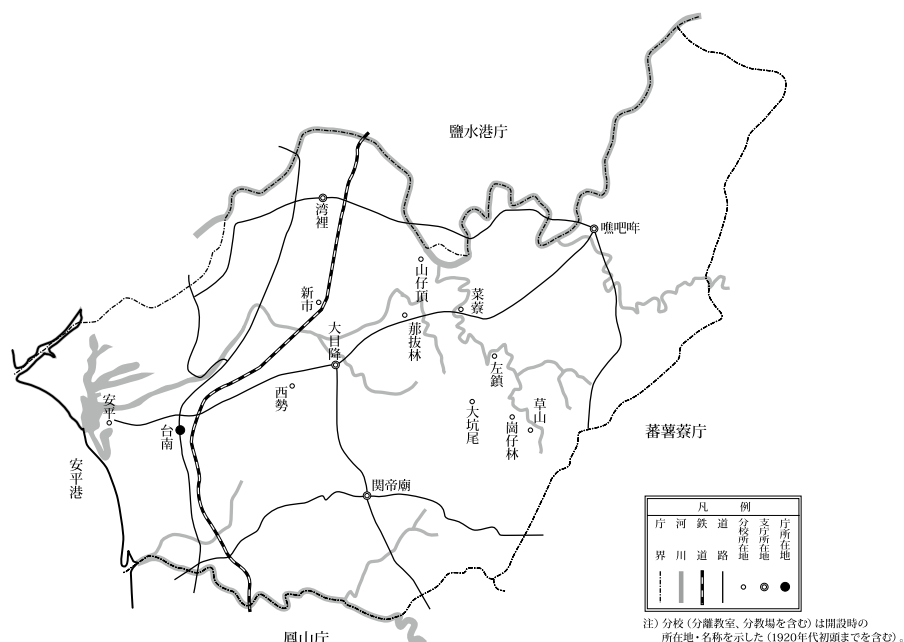


図1 台南庁概略図(1910年頃)

会に視点を据えて東アジアの植民地化・脱植民地化の道筋を解明していくことをめざしている^①。本稿は、別稿で取り上げた「新化公学校」を本校とする分教場・分校・分離教室にフォーカスしたものであり、これら分校を前身とする、8つの国民小学(うち2校は廃校跡)の調査に基づく^②。

本校・分校をあわせて調査することの重要性は、調査の過程を通じてより鮮明になってきた。後述するように資料の残存状況は分校の独立・再編のプロセスとも連動しており、個別の学校単位の調査では把握しきれない点も少なくない。学校の開設・維持・統廃合のプロセスに関しても、地域の出資者や就学・進学者の動向、教職員の異動、学校行事や地域の活動・事業など相互の関わりが浮かびあがってくるにつれ、個別の学校史を越えて、「地域」の動態をふまえながら住民にとって公立(総督府認可)初等学校の存立する意味をいかに捉えるか、その視座が改めて問われてくる。さらに、分教場・分校・分離教室という設置形態についてはこれまでほとんど留意されてこなかったが、植民地下における学校「普及」過程を再考するうえでも看過できない特徴だと思われる。本稿ではこうした課題を念頭におきつつ、研究進展の基盤となる資料の共有化を進めるものである。

あらかじめ「新化公学校」を本校とする分教場・分校・分離教室の概略を提示しておく(表1・2、図1参照)。「新化公学校」(一八九八年一〇月大穆降公学校として開設)の通学区域内には、左鎮分教場(一九〇〇年七月開設、一九〇四年六月廃止)をはじめとして、山仔頂分校(一九〇八年一月開設、一九一七年四月独立)、新市分校(一九一七年四月開設、一九二〇年四月独立)、崗仔林分校(一九一八年四月開設、一九二一年四月独立)、菜寮・西勢・大坑尾・草山の各分離教室(いずれも一九二〇年四月開設)、荖拔林分離教室(一九二二年七月開設)が

表1 「山上公学校」関連年表

年	本校 「新化公学校」	分校	
		「山上公学校」	他の分校等
1898	9.台南国語伝習所大穆降分教場開設		
1898	10.大穆降公学校に改編、速成科設置（同年度廃止）		
1900			7.左鎮分教場開設（1904廃止）
1902	小学科設置（1912台南尋常高等小学校大目降分教場、1913独立）		
1907		11.大穆降公学校山仔頂分校設置認可（山仔頂庄350番地）	
1908		1.仮校舎にて授業開始（山仔頂庄苦瓜寮） 4.新校舎に移転	
1909		夏雨期に校舎倒壊 12.新校舎竣工	
1910		1.新校舎に移転（山仔頂庄735番ノ1）	
1912	12.大目降公学校に改称		
1917		4.山仔頂公学校独立認可	4.新市分校開設（1920独立、現・新市国民小学）
1918			4.崗仔林分校開設（1921独立、1924岡子林分教場に改編・左鎮公学校に分属）
1920		4.大社分離教室開設	4.葉寮分離教室開設（1921岡子林公学校に分属、1922左鎮分教場に改称、1924独立、現・左鎮国民小学） 4.西勢分離教室開設（1920.12埔姜頭公学校に分属） 4.大坑尾分離教室開設（1923大坑尾分教場、1933虎頭埤分教場に改称、現・口碑实验小学） 4.草山分離教室開設（1921岡子林公学校に分属、1925廃止）
1921	4.新化公学校に改称	4.山上公学校に改称	
1922	4.新化公学校高等科設置(1926廃止)		7.那拔林分離教室開設（1923那拔林分教場に改編、1941北新分教場に改称、1942独立、現・那拔国民小学）
1923		4.大社分離教室を分教場に改編	
1925		10.大社分教場廃止	
1926	4.新化農業補習学校開設（1931新化農業専修学校に改編）		
1932		5.学校位置変更認可 12.新校舎落成式	
1933			
1934	4.新化女子技芸講習所開設（1940新化家政女学校に改編） 新化公学校附設幼稚園開設		
1938		4.大社分教場再開	
1941	4.新化北国民学校に改編	4.山上国民学校に改編 4.大社国民学校（独立）	
1945		〈日本統治終結、中華民国接收〉	
1946	1.新化鎮新化第一国民学校に改編 12.新化国民学校に改称	山上郷山上国民学校に改編	
1968	8.新化国民小学に改編	8.山上国民小学に改編	

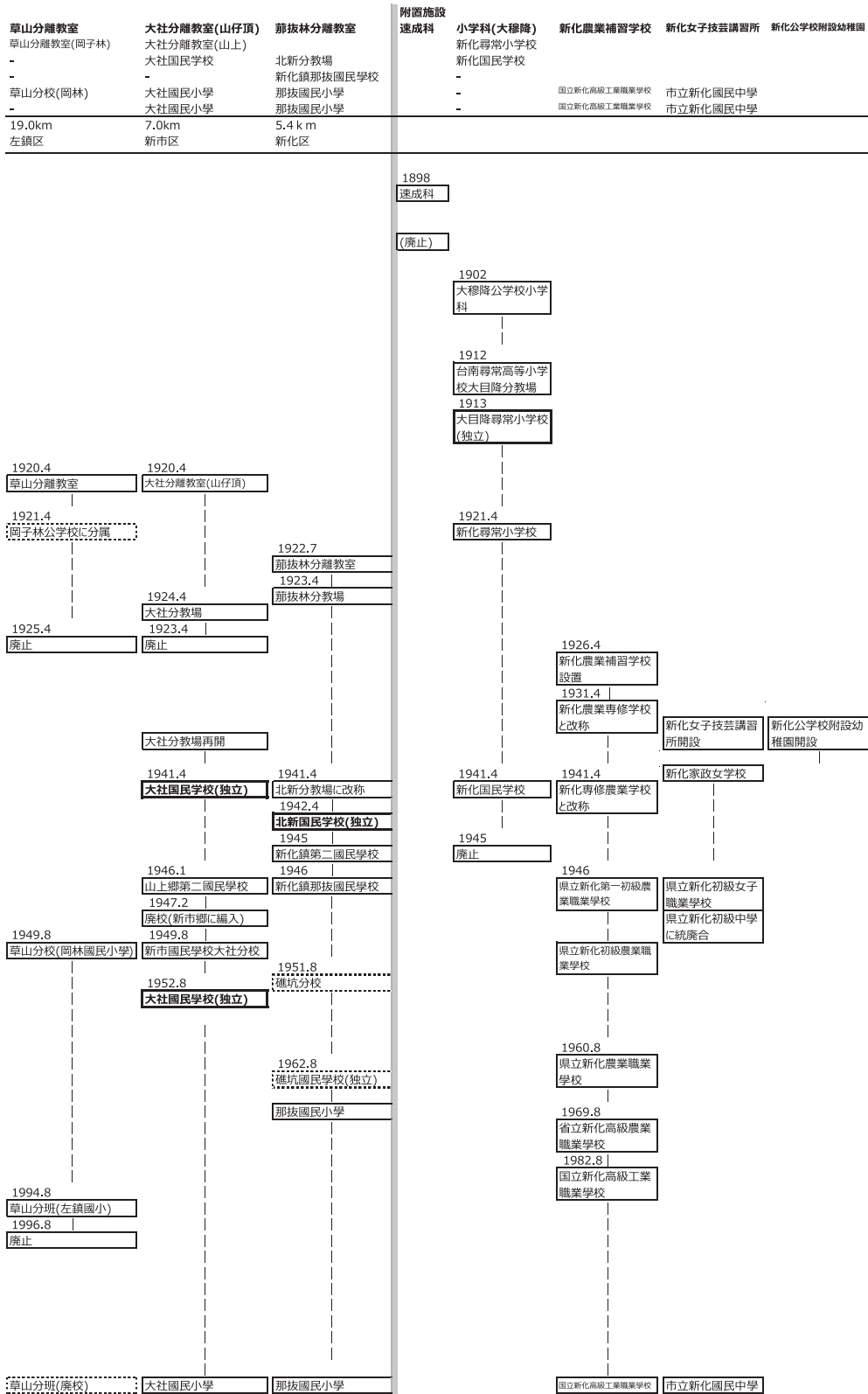


表 2 新化公学校・分校等沿革

名称変更 開設時	本校 台南國語伝習所 新化公学校 新化北国民学校 新化國民學校 新化國民小學 新化國民小學	分校場/分校/分離教室 左鎮分校場 山仔頂分校 山上公学校 山上國民学校 山上國民學校 山上國民小學	新市分校 新市公学校 新市國民学校 新市國民學校 新市國民小學	岡仔林分校 岡仔林公学校 岡仔林分校場(左鎮) 岡林國民小學 -	菜寮分離教室 菜寮分離教室(岡仔林) 左鎮國民学校 左鎮國民學校 左鎮國民小學	西勢分離教室 西勢分離教室(埔姜頭) (西勢國民小學) (西勢國民小學)	大坑尾分離教室 大坑尾分離教室 虎頭埤分校場 口埤國民學校 口埤國民小學 口埤實驗小學
新化から 現行政	0.0 k m 新化区	左鎮区 山上区	5.9 k m 新市区	13.3 k m 左鎮区	13.3 k m 左鎮区	4.8 k m 永康区	4.5 k m 新化区
1898.9 台南國語伝習所 大穆降分校場 1898.10 大穆降公学校		1900.7 左鎮分校場 1902.6 廃止	1907.11 山仔頂分校				
1912.12 大目降公学校							
			1917.4 山仔頂公学校(独立)	1917.4 新市分校	1918.4 岡仔林分校		
			1920.4 大社分離教室開設	1920.4 新市公学校(独立)	1920.11 岡仔林分校 1921.4 岡仔林公学校(独立)	1920.4 菜寮分離教室 1921.4 岡仔林公学校に分属 1922.4 左鎮分校場に改称(岡 仔林公学校に分属)	1920.4 西勢分離教室 1920.12 埔姜頭公学校に分属
1921.4 新化公学校 1922.4 高等科設置		1921.4 山上公学校 1923.4 大社分校場開設 1925.10 大社分校場廃止 1938.4 大社分校場再開		1924.4 岡仔林分校場(左鎮公 学校に分属)	1924.4 左鎮公学校(独立)		1923.4 大坑尾分校場
1926.4 高等科廃止							1933.3 虎頭埤分校場に改称
			1938.4 大社分校場再開				
1941.4 新化北国民学校		1941.4 山上國民学校 大社國民学校(独立)					
1946 新化鎮第一國民學校 新化國民學校		1946 山上郷山上國民學校	1947 新市國民學校	1945 岡仔林國民學校 1946 左鎮郷第二國民學校 1947 岡林國民學校	1946 左鎮郷第一國民學校 1947 左鎮國民學校 澗山分校		1946 新化鎮第三國民學校 1947.2 口埤國民學校
						1955 澗山國民學校(独立)	
						1958 永康郷大灣國民學校 永康郷西勢國民學校	
1968.8 新化國民小學		1968.8 山上國民小學	1968.8 新市國民小學	1968.8 岡林國民小學	1968.8 左鎮國民小學	1968.8 西勢國民小學	1968.8 口埤國民小學
				1996.8 岡林分校(左鎮國小) 1997.8 岡林國民小學(独立)			
				2001.8 岡林分校(左鎮國小) 2006.8 左鎮國小に統廃合			
2017 新化國民小學		山上國民小學	新市國民小學	岡林分校(廃校)	左鎮國民小學	西勢國民小學	口埤實驗小學

順次設置されている。このうち山仔頂分校は、短期間で廃止に至った左鎮分教場に次いで最も早期に開設し、今日に至るまで存続している施設である。後述するように、これらのうち学校沿革誌の所蔵が確認できているのは山上国民小学のみである。以下では、「新化公学校」の分校に関わる学校所蔵史料の現況を整理したうえで、山上国民小学所蔵の学校沿革誌の概略を紹介する。

二、「新化公学校」分教場・分校・分離教室を前身とする国民小学の所蔵資料概況

表3は、二〇一五年三月から二〇一七年八月にかけて台南市新化・左鎮・山上・新市区（旧台南州新化郡に相当）の国民小学（山上、新市、左鎮、那拔、口碑、大社、旧・岡林、旧・草山）において確認できた資料の一覧である。本調査ではさしあたり開校から中華民国接收初期（一九〇〇年頃から五〇年頃まで）に重点をおいて閲覧・整理を進めているが、現用文書・歴史資料の位置づけは学校により一様ではなく、資料の所管は学校長、教務処、総務処などに分かれる。部外者が閲覧可能な資料は訪問時により異なる場合が少なくないほか、校舎建て替えの施工期間や周年記念事業の展開過程に調査が重なったケースもある。

総じて学籍簿の占める比重が高い点は、全島的な学校現存資料の傾向に通ずる。⁽³⁾ 学校沿革誌の所蔵を確認できたのは山上国民小学のみであるが、同校で確認できた日本植民地期の資料はこれまでのところ同資料一点のみである。⁽⁴⁾

相対的に多数の資料を確認できた新市国民小学では、「創校百年」記念行事の一環として二〇一六年一二月末に構内の一角に校史室が新設され、創校以来の文物の展示・保管の環境整備が進みつつある。二〇一七年三月時点で同室のガラス書棚に陳列されていた資料には、二〇〇〇年代の会議録や刊行物なども含まれるが、一九四〇年代以前のものとしては卒業生台帳が主である。とくに目を引くのは、山上公学校大社分離教室を前身とする大社分校の学籍簿が含まれていること、また、太平洋戦争期の公学校附設幼稚園の学籍簿や、中華民国接收もない時期に開設された「民衆班」の卒業生名簿が含まれていることなどである。⁽⁵⁾

近年廃校となった岡林国民小学（旧・岡仔林）、草山国民小学（旧・草山）については、かつての本校にあたる左鎮国民小学の所蔵する歴代卒業生名簿に一部記録が含まれている。また、口碑実験小学（旧・大坑尾）および大社国民小学（旧・大社）では一九四〇年代以前の資料を確認できていないが、後者については上述したように一時期本校・分校の関係にあった新市国民小学に一部関係資料が所蔵されている。

以上、二〇一五年三月から二〇一七年八月の時期に新化およびその分校を前身とする国民小学9校での調査を通じて確認できたのは、学校沿革誌2点、教員履歴書綴1点、奉安庫1点、写真（帖）数点のほか、学籍簿・卒業生名簿約五十点等になる。⁽⁶⁾ さらに、これらと密接に関わる資料群として、新化地域で学校教育に長年従事した人物の旧蔵資料の調査を通じて、教案、学校要覧、（簡易）国語講習所関連資料、写真など貴重な資料を確認することができた。また、国立台湾歴史博物館には卒業生からの寄贈文物が一定程度収蔵されている。前者については目下、整理・目録化を進めており、稿を改めて論じることとしたい。

表3 台南市新化区国民小学所蔵史料

所管	史料名	年代	作成者	形態
■山上国民小学				
	学校沿革誌	1907-70's		厚紙表紙、紐綴じ
■新市国民小学				
	修業証書台帳 第一学年	1916-39	新市公学校	厚紙表紙、紐綴じ
	修業証書台帳 第三学年	1918-39	新市公学校	厚紙表紙、紐綴じ
	修業証書台帳 第四学年	1919-39	新市公学校	厚紙表紙、紐綴じ
	修業証書台帳 第五学年	1920-39	新市公学校	厚紙表紙、紐綴じ
	大正十年度起 卒業証書台帳	1921	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	大正十年度 卒業生台帳	1921	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	大正十一年度 卒業生台帳	1923	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	大正十二年度 卒業生台帳	1923	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	大正十三年度 卒業生台帳	1924	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	大正十四年度 卒業生台帳	1925	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	大正十五年度 卒業生台帳	1926	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和二年度 卒業生台帳	1927	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和三年度 卒業生台帳	1928	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和四年度 卒業生台帳	1929	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和五年度 卒業生台帳	1930	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和六年度 卒業生台帳	1931	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和七年度 卒業生台帳	1932	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和八年度 卒業生台帳	1933	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和九年度 卒業生台帳	1934	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和十年度 卒業生台帳	1935	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和十一年度 卒業生台帳	1936	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和十二年度 卒業生台帳	1937	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和十四年度 卒業生台帳	1938	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和十五年度 卒業生台帳	1940	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和十七年度 卒業生台帳	1941	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	〔昭和十八年度 卒業生台帳〕	1943	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	昭和十九年度 卒業生台帳	1944	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	児童班学籍表 第六学年第二班	1940		厚紙表紙、紐綴じ
	民国参拾年入学 学籍簿（転記済）	1941	大社分校	厚紙表紙、紐綴じ
	民国参拾式年度 畢業生台帳	1943	大社分校	厚紙表紙、紐綴じ
	民国参拾式年起民国参拾五年参月 畢業生台帳	1943-45	大社国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	民国参拾参年度 畢業生台帳	1944	大社分校	厚紙表紙、紐綴じ
	民国参拾四年度 畢業生台帳	1945	大社分校	厚紙表紙、紐綴じ
	民国卅八年壹月起 学校経費収支備査簿	1949	新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	民国四十年度 畢業生学籍簿	1951		厚紙表紙、紐綴じ
	民国四十年度 畢業生学籍簿	1951	教務部	厚紙表紙、紐綴じ
	民国肆拾学年度 除籍簿	1951	教務部	厚紙表紙、紐綴じ
	畢業生名冊（民衆班）		台南県新市国民学校	厚紙表紙、紐綴じ
	民衆班畢業生名冊		教務部	厚紙表紙、紐綴じ
	写真〔バラ〕	20c		複製、額縁入り
■左鎮国民小学				
	歴届畢業生名簿	1923-55	左鎮国民学校	
	歴届畢業生名簿	1956-63	左鎮国民小学	
	学籍表公文	1946-51	左鎮国民学校	
	写真〔バラ〕	20c		デジタルデータ
■那拔国民小学				
	写真帖	1930's-70's		緑装丁表紙、黒台紙

（凡例）「史料名」には、原則として表紙等に記載された標題を示し、補足事項を〔 〕で示した。

「年代」には、当該史料に含まれる記載内容の時期を示した。

「作成者」には、表紙等に記載がある場合のみ示した。

三、「山上公学校沿革誌」の内容構成

山上国民学校所蔵の学校沿革誌は黒表紙・紐綴じされた形態で、表紙に「学校沿革誌」と筆書した表題が付されている。その内容構成を現状の配列順に示したものを表4に掲げた。便宜上、各項目に通し番号を付し、見出しを補った箇所は「」で表記した。

本沿革誌は、編述の様式・内容に着目するとおおよそ次の五つの文書群が綴じ合わされており、記載内容の時期にも間断がある。

- ① (No. 1～15, 17～22)
- ② (No. 23～37)
- ③ (No. 38)
- ④ (No. 39)
- ⑤ (No. 16, 40)

このうち、①の冒頭には「調製者 山仔頂公学校雇 傳營」と記載されている。傳營（一八八九年山仔頂庄生、没年不詳）は、幼少期より約十年にわたり近隣の私塾（書房）にて漢学の素養を身につけた後、一九〇五年湾裡公学校に一年間修学し、山仔頂庄保甲連合事務所書記を経て、一九〇八年四月から大目降公学校山仔頂分校に雇として勤務した人物である。日本人教諭一名・台湾人雇一名の体制のもとで、主任（のち校長）である日本教員が数年で交替していくなか、分校創設の翌年度から一九二〇年頃まで継続的に学校運営を担う位置にあった。記載内容の時期や筆跡および一九一九年度より傳營の職名が雇から訓導心得に変わることなどから、①はおおよそ一九一八年度末に調製（つまり本校から独立してまもない時期に分校創設期にさかのぼって編述）され、後年に一部加筆されたものと推察される。

内容構成の点で①は本校の「新化公学校沿革誌」と同様に、台南県訓

令甲第百壹号（一八九八年十二月九日）におおよそ準じた内容構成だといえる^⑧。生徒や教職員に関する記録（No. 11～22）には分校創設以来の時期が含まれるのに対して、学校財政に関する記録（No. 9）は独立以後に限定されている。分校の維持・運営が本校の財源によっていたためであろう。この点、分校期（一九〇七～一七年）に関わる諸記録（学校沿革、学級編制、生徒異動、教員・学務委員履歴等）は本校備付けの簿冊にも含まれており、とくに、建物配置平面図や財政面の記録（授業料、寄付金、経費等）など本沿革誌を補う要素も少なくない。本校の沿革誌に含まれない本沿革誌独自の項目としては「児童身体検査状況」が目止まる。

他方、②③は一九一七～一八および二七年度における単年度ごとの記録、④は歴年の統計を含む一九二八年現在の学校概要、⑤は学校沿革・統計を厚紙一枚にまとめたものである。このうち②が統計表の列挙であるのに対して、③では日誌形式の記録中に児童成績・異動、学級編制、経費などの統計表が織り込まれている点特徴的である。⑤は記載の内容・形式から一九四〇年代初頭の国民学校期に作成されたものと推察されるが、「沿革之大要」欄に「民國卅四 八 一五 日本投降、台湾光復」と朱書きされているほか、歴代校長名や統計欄については中華民国接收後も記入が継続されている。こうした編述の推移がそれぞれの時期における台南庁・州独自の規程や様式に基づくのか確認できておらず、②以降の部分については、異なる文脈で作成された文書が後年ひとつに合綴されたという可能性もありうる。

表4 「山上公学校沿革誌」の内容構成

No.	項目	記載内容の時期	備考
①			
1	目録		美濃野紙、柱に「山仔頂公学校」
2	山仔頂公学校沿革ノ大要	1907年-1932年	
3	創立者ノ功績		
4	通学区域		
5	設置区域図		
6	建物及運動場		
7	資産（建物及備品ノ部）		
8	資産（土地ノ部）		
9	經常経費	1917-18年度	
10	学事ノ状況		
11	各学年度学齡兒童調	1908-18年度	
12	各学年度兒童異動	1908-18年度	
13	各学年度兒童出席百分比例	1908-18年度	
14	就学兒童	1908-18年度	
15	兒童身体検査状況	1908-18年度	
16	学校概況表	1907年12月-1976年 8 月	No.40の電子複写（白黒）
17	校長在職年調	1901年 2 月-1917年 4 月	
18	職員在職年調	1907年12月-1918年11月	
19	校長賞罰調	1907年12月-1918年12月	
20	職員賞罰調	1908年12月-1918年12月	
21	学務委員在職年調	1908年 2 月-1918年	
22	学務委員賞罰調	1908年12月-1918年12月	
②			
23	大正六年度学級並受持表	1917年度	美濃野紙、柱に「山仔頂公学校」
24	大正六年度合格不合格兒童	1917年度	
25	大正六年度各月兒童出席歩合	1917年度	
26	大正六年度各学年兒童成績平均並年齢	1917年度	
27	大正六年度受賞兒童	1917年度	
28	大正六年度兒童操行調	1917年度	
29	卒業者ノ状況	1917年度	
30	大正七年度学級受持表	1918年度	
31	大正七年度合格不合格兒童	1918年度	
32	大正七年度各月兒童出席歩合	1918年度	
33	大正七年度各学年兒童成績平均並年齢	1918年度	
34	大正七年度兒童操行調	1918年度	
35	大正七年度受賞兒童	1918年度	
36	卒業者ノ状況	1918年度	
37	大正七年度学事報告	1918年度	
③			
38	昭和二年度〔学事記録〕	1927年度	美濃野紙、柱に「山上公学校」
④			
39	昭和三年度四月調 山上公学校要覧	1907-1928年度	美濃野紙、柱に「山上公学校」
⑤			
40	学校概況表	1907年12月-1976年 8 月	48×58 cm厚紙

注

1 北村嘉恵・樋浦郷子・山本和行「新化公学校沿革誌」「新化農業補習学校沿革誌」——植民地台湾の教育史」『北海道大学大学院教育学研究紀要』第一二六号、二〇一六年六月。台湾における学校資料関連の研究動向および学校沿革誌作成の制度的沿革については、前稿を参照されたい。なお、前稿では、市立新化国民小学および国立新化高級工業職業学校の属する行政区を「台南県」（二頁）と記したが、二〇一〇年二月の県市合併により台南県は台南市（直轄市）に改編されている。ここにお詫びして訂正する。

2 新化地域の教育関係資料については、学校所蔵資料のほか、台南市内の個人宅やキリスト教会、国立台湾歴史博物館などの所蔵資料調査を樋浦郷子・山本和行と共同で進めている。調査にあたっては、康文榮氏、蔡宗霖氏を主とする地元文史研究者や学校、教会、区公所等の関係者より多大な協力を得ている。すべてのお名前を挙げることはかなわないが、記して心からの謝意を表する。関係資料については機会を改めて紹介したい。

3 台湾における学校所蔵資料の概況については注1文献の解題を参照されたい。
4 分校時期（一九〇七～一七年）の資料（学籍簿、教員履歴、学校沿革等）に関しては、本校である「新化公学校」関係資料に一部含まれており、注1文献の解題・翻刻において紹介している。

5 資料の来歴は不詳であるが、大社国民小学が一九五〇年前後の一時期に新市国民学校の分校であったことと関わると思われる。

6 『新市児童六 新市国民小学創校七十一週年校慶特刊』（一九八八年）には創設以来の職員一覧（姓名、職名、就職・離職年月、出身）が含まれるが、現時点でこれに関わる原資料は未確認である。教務主任として同書の編輯に携わった呂昌道氏によれば、厚紙表紙付きのA3大サイズの資料を利用したとのことである。

7 この間、学校所蔵資料の調査と併行して、新化地域の元教員や歴史文化活動従

事者の個人所蔵資料のほか、新化基督長老教会、新化朝天宮、新化太子宮、新化神社跡、台糖公司研究所、楊逵文学記念館、国立台湾歴史博物館、国立台湾文学館（いずれも台南市）など諸機関の所蔵資料・旧跡の調査を行ってきた。これら調査を通じて浮かび上がってくるのは、公立学校の開設と相前後して存在した種々の教化施設・組織（キリスト教会日曜学校、糖業試験所附設講習所（簡易）国語講習所、壮丁団、青年団など）の形態およびこれらと重層的に関わる人々の姿である。これらの資料については整理・目録化を継続中であり、総合的な分析とともに今後の機会を期したい。

また、新化地域での継続的な調査と併行して、予備調査により学校沿革誌や公文書綴りの現存が見込まれる国民小学に重点を置いて全島的な調査を進めている。前稿でも指摘したように、現在台湾島内において確認できる学校文書（日本植民地期を含む）の大きな傾向として卒業生台帳や学籍簿など生徒（当該地域の住民）と密接に関わる記録の占める分量が相対的に大きく、学校沿革誌を所蔵していることを確認できている学校は約三十である（学校文書の所蔵が見込まれる国民小学は約八十校）。このうち新屋国民小学（桃園市）所蔵の学校沿革誌については、山本和行「台湾桃園市新屋国民小学所蔵「新屋公学校沿革誌」（『天理大学学報』）として近刊予定である。

8 『台南県報』第百二十三号、一九八八年十二月九日。同訓令が示した「学校沿革誌記載事項」とは、「創立・変更分合・設置区域・経費収入支出・基本財産・授業料（寄附）図書・機械器具及標本・諸規程・修学生徒・試験（生徒賞与・職員・職員賞与・学務委員・学校管理者・官吏巡視・学事尽力者・学事ノ状況）の二十項目である。学校沿革誌作成に関わる諸規程の変遷については、注1文献の解題を参照されたい。

史料

〔凡例〕

- 一、原則として、旧字・俗字・異体字は通行のものに改めた。ただし、人名・地名については旧字を用いたものもある。また、台湾人の人名・地名は、原則として資料どおりとした。
- 二、漢数字については、原則として資料どおりとしたが、次のように統一したものもある。
 壹・壹 ↓ 弍 弍・貳・貳 ↓ 弍 参・参 ↓ 参
- 三、誤記と判断される箇所に関しては、傍注で「ママ」を付すか、「」内に正しいと思われる表記を示した。
- 四、判読不能箇所には、およその文字数分の□を記した。
- 五、行間への書き込みや引き出し線による語句・文章の挿入がある場合、本文の当該箇所に「へ」を用いて、挿入された文字を記した。
- 六、文章が削除・訂正されている場合、原則として削除された語句を「」内に記した。
- 七、個人のプライバシーにかかわる情報が含まれる箇所については、プライバシー保護の観点から、人名の部分を文字数分の*に変換して示した。

史料 「山上公学校沿革誌」

〔表紙〕

学校沿革誌

図2 「山上公学校沿革誌」
(山上国民小学所蔵)

〔本文〕

調製者 山仔頂公学校雇 傅營

目録

番号	事項	番号	事項	番号	事項
一	沿革ノ大要	一〇	学齡児童調	一九	学務委員在職年調
二	創立者ノ功績	一一	児童異動調	二〇	全 賞罰調
三	設置区域	一二	全 出席歩合		
四	設置区域図	一三	就学児童		
五	建物及運動場	一四	児童身体検査状況		
六	資産(建物及備品ノ部)	一五	校長在職年調		
七	全 (土地ノ部)	一六	職員在職年調		
八	經常經費	一七	校長賞罰調		
九	学事ノ状況	一八	職員賞罰調		

山仔頂公学校沿革ノ大要

一、当校ハ明治四十年十一月二十四日大目降公学校山仔頂分校トシテ創立ヲ認可セラレ全四十一年一月四日仮校舍ニ於テ授業ヲ開始シ全年四月十五日新築仮校舍ニ移転セシガ明治四十二年雨期ノ際仮校舍破損シタルヲ以テ永久的の校舍ヲ新化東里山仔頂庄三五〇番地

ニ起工着手全年十月四日ヨリ全十二月二十三日ニ至リ竣工越テ明治四十三年一月四日本校舍ニ移転ノ上授業ヲナセリ、大正六年四月一日山仔頂公学校トシテ独立認可セララル
大正七年度仮校舍二教室 全八年度一教室 全九年度一教室増築
大正九年四月一日大社分離教室設置
大正十年四月二十四日 山上公学校ト改称ス
全十二年四月一日大社分離教室ヲ廃止シ大社分教場ヲ設置ス
大正十四年十月十日大社分教場ヲ廃止ス
昭和七年五月二十五日山上庄山上五八一番地へ「校舍移転」へ位置變更ノ認可ヲ受ケ

昭和七年八月八日煉瓦造平屋建三教室及便所新築起工 十一月三十日竣工 十二月八日落成式ヲ举行セリ(三教室建坪七八・五一二五坪 便所六坪 經費總額四七六二円)
昭和七年十二月一日仮校舍四教室「取払」へ廃棄ノ認可ヲ受ケ
八年五月五日取払ヲ行フ(「入札」競売)

創立者ノ功績

一、当校設立ニ関シ諸般ノ件ニ尽力セラレシ者

大目降支庁長 田中鷺郎

新化里東区長 林阮金

学務委員 楊左泉

全 陳大海

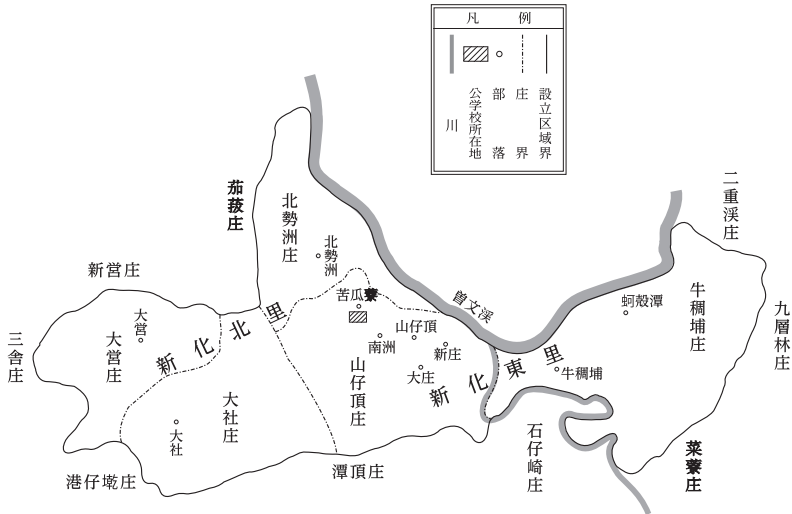
〔設置〕〈通学〉区域

一、当校「設置」〈通学〉区域

新化東里 山仔頂庄、牛稠埔庄

設置区域図

縮尺七万分ノ一



設置区域図

新化北里
大營庄、大社庄、北勢洲庄
東西一里二十八町、南北一里
戸数 一千二百五十六戸
人口 五千五百三十九人

建築物及運動場

一、校舎 日本風内地瓦木造平家ニシテ坪数左ノ如シ

名称	員数	坪数	摘要
教室	二	四〇	各五間ニ四間
職員室	一	八	四間ニ二間
廊下		一六	幅一間ニ長サ十六間
便所	一	七	二間ニ三間半
物置	一	八	四間ニ二間
職員宿舎	一	一六	
井戸	一	一	
運動場		八一六	

資産

(建物並備品ノ部)

名称	員数	価格	摘要
建物	三	六七九一	
全	一	三〇〇	
図書	二〇二	二四七	
器械	六	一〇〇	
器具	二七六	七〇二	
標本	四	三	
模型	六	五	
雑品	一二五	七六	
		一〇一〇	
			物置大正三年十一月竣工

科 目	款 項	大正六年度	大正七年度	大正八年度
經常收入	基本財産収入	三〇三一	一八二三	六〇〇
	授業料	四一	一〇三	〇〇〇
	雑入	八七	一一四	〇〇〇
	負担金	五	一二	八二〇
	臨時収入	二八九七	一五八三	七八〇
	前年度繰入金	四二〇	一七〇一	五〇〇
	寄附金	一	一〇一	五〇〇
	基本財産繰出	一	一六〇〇	〇〇〇
	借入金	一	一	〇〇〇
総計		三〇三一 三七〇	三五一五 一〇〇	

〔經常経費〕

〔歳入〕

坐落	地番	地目	等則	甲数	地租	価格
全	三五一	全	六三	二〇二〇		一四一 四〇〇
全	三五〇	建物地	六三	三五五五		一二四 四二五
全	四七九	原野		七一五五		一四三 一〇〇
全	七三六	全	八	五五二五	四 〇四〇	三八八 一二五
新化東里 山仔頂庄	七三五ノ一	畑	八	七五〇〇	二 五三〇	一八七 五〇〇

〔土地ノ部〕

科 目	款 項	大正六年度	大正七年度	大正八年度
經常費	校費	一三三一	一六二五	一〇〇
	修繕費	五二〇	六二一	六〇〇
	旅費	一七五	二二〇	〇〇〇
	雑給雑費	一七二	一八三	〇〇〇
	児童費	二九一	三六一	〇〇〇
	財産費	二一	二八	五〇〇
	雑出	八〇	一四〇	〇〇〇
	予備費	七〇	七〇	〇〇〇
臨時費	校地設備	一六九九	一八九〇	〇〇〇
	校舍設備	一	一八五	〇〇〇
	宿舍設備	一	一	〇〇〇
	設備諸費	一	四〇	〇〇〇
	基本財産繰入	一六九九	五三〇	
	借入金償還	一	一	
総計		三〇三一 三七〇	三五一五 一〇〇	

〔歳出〕

学事ノ状況

一、当校設置区域ハ五庄ニ亘リ東西一里二十八町南北一里ノ広袤ヲ有
 ス明治四十一年始メテ公学校分校ヲ設クルヤ入学児童百有余名ニ
 及ビシト虽モ一年ナラズシテ殆ド其半退学スルニ至レリ是レ最初
 ノ好奇心ニ驅ラレ文明教育ノ何タルカヲ解セズシテ徒ニ子弟ヲ就
 学セシメシニ依ルモノト認メラル爾後学校当局ノ不断ノ奨励ト時
 勢ノ進運トニツレ年年健実ナル児童ノ就学ヲ見ルニ至レリト虽モ
 尚前途遙ナリ即チ毎年新入学児童ヲ募集スルニ学校当局ノ学務委
 員同伴ニテ数日之レガ為メニ費スガ如キ実ニ遺憾ナリ、彼ノ一片
 ノ新聞広告ニ依リ応募者超過シテ全部ヲ収容スル能ハズ撰抜ノ上
 入学許可ヲ與フガ如キ時機ハ今後尚数年ヲ要スベシ前述ノ如ク状
 況ナルヲ以テ入学児童ノ撰抜十分ナラザル結果入学後或ハ欠席シ
 或ハ退学スル者続出スルニ至ルモ止ムヲ得ズ要スルニ当地ハ僻地
 ニシテ交通ノ便ニ乏シク從ツテ外界ノ刺激ヲ受クルコト少ナキヲ
 以テ一般ニ民度低ク文明ニ遅ル、事遙カナリ学校当局ノ猛烈ナル
 奨励努力ヲ辞セザレバ時運ノ進歩ト相待^{（マデ）}ツテ彼等頑迷ナル土民ヲ
 シテ文明ノ空氣ヲ十分味ハシム以テ向学心ヲ高メシムルヲ得ベシ
 ト信ズ

各学年度学齡児童調

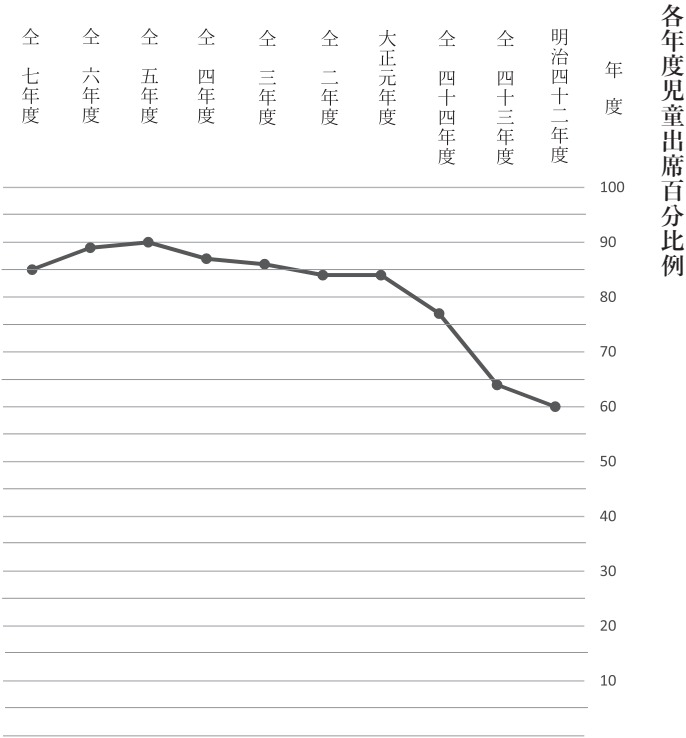
学年度	公学校在学者		公学校卒業者		不就学者		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
明治四十一年度	一〇八	一			六七八	六〇一	七八六	六〇一
全 四十二年	一二六	一			六一三	五七四	七二九	五七四
全 四十三年	九一	四			六五八	五八一	七四九	五八五
全 四十四年	八四	一			六六八	五九七	七五二	一三三四
大正元年度	一〇九	八			六八三	六四九	七九二	一四四九
全 二年度	一二二	八			六二八	六二〇	七五一	一三七九
全 三年度	一二七	三			六四二	五一七	七四六	五二〇
全 四年度	一二〇	一			五八七	六〇〇	七一八	一三一八
全 五年度	一二九	一			四六五	五六二	六〇八	一七〇
全 六年度	一四九	二			四一〇	五三四	五七七	一一〇三
全 七年度	一七八	一三			三六四	五〇五	五四二	一〇六〇

各学年度児童異動

学年度	新転再入学者			半途退学者			死亡者			卒業者			年度末現在数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
明治四十一年度	一〇八	一	一〇八	二五	一	二五							八三	一	八三
全 四十二年	五四	五	五九			二五							一一二	五	一一七
全 四十三年	二六	一	二七		五	八三			一				五九	一	六〇
全 四十四年	三九	一	三九	九		九							七八	一	七九
大正元年度	四七	七	五四	三一		三一							九四	八	一〇二
全 二年度	三一	一	三一	二六	四	三〇			一				九八	四	一〇二
全 三年度	三五	一	三六	二二		二四							一〇〇	二	一〇二
全 四年度	三六	一	三七	二二		二六							一〇五	一	一〇六
全 五年度	四四	一	四五	一		二			二				一〇六	一	一〇七
全 六年度	四八	二	五〇	二		二〇			一				一二九	一	一三〇
全 七年度	五九	一五	七四	一〇	一	一一			一				一六一	一五	一七六

種別		性別	第一学年	第二学年	第三学年	第四学年	第五学年	第六学年	計	担任教員
第二学級	女	男	四八						四八	(教)長嶺牛清
	女	男								
第一学級	女	男	六〇						六〇	(雇)傳 營
	女	男								

就学児童
一、明治四十一年四月末日現在



一、大正二年四月末日現在

種別	第一學級		第二學級		種別
	女	男	女	男	
第一學年	一	三四	一	一	體性
第二學年	一	一	五	四一	
第三學年	一	一	二	一九	
第四學年	一	一〇	一	一	
第五學年	一	一九	一	一	
第六學年	一	一	一	一	
計	一	六三	七	六〇	
担任教員	(教)大野石太郎		(雇)傳營		

一、明治四十五年四月末日現在

種別	第一學級		第二學級		種別
	女	男	女	男	
第一學年	五	五二	一	一	體性
第二學年	三	二二	三	二二	
第三學年	一	一四	一	一四	
第四學年	一	二二	一	二二	
第五學年	一	一	一	一	
第六學年	一	一	一	一	
計	八	一〇九	三	五七	
担任教員	(雇)傳營		(教)大野石太郎		

出席平均數	計		出席平均數	計	
	女	男		女	男
九八、六〇	七、四四	九八、六〇	九〇、四六	九三、〇〇	九〇、六三
欠席平均數	一四	二二	欠席平均數	一四	二二
百中比例	一〇、四〇	五、五七	百中比例	一〇、四〇	五、五七

一、明治四十四年四月末日現在

種別	第一學級		第二學級		種別
	女	男	女	男	
第一學年	一	三三	一	一	體性
第二學年	一	一六	一	一六	
第三學年	一	二六	一	二六	
第四學年	一	二二	一	二二	
第五學年	一	一七、六二	一	一七、六二	
第六學年	一	一	一	一	
計	一	九七	一	九七	
担任教員	(教)大野石太郎		(雇)傳營		

出席平均數	計		出席平均數	計	
	女	男		女	男
七九、三八	〇、六七	七九、三八	八一、八四	六七、〇〇	八一、六八
欠席平均數	一六	二六	欠席平均數	一六	二六
百中比例	一七、六二	五、五七	百中比例	一七、六二	五、五七

出席平均数 日々	計		第一学級		第一学級		種別
	女	男	女	男	女	男	体性
女 男							第一学年
一二一、八四 、	三三 、		、		三三 、		第二学年
	二八 、		、		二八 、		第三学年
欠席平均数 日々	一八 、		一八 、		、		第四学年
女 男							第五学年
一七、一六 、	一七 、		一七 、		一五 、		第六学年
	九 、		九 、		六一 、		計
平均 女 男	二二〇 、		五九 、		六 、		担任教員
八六、五九 、				(教)笠原憲一郎		(雇)傳 營	

一、大正四年四月末日現在

出席平均数 日々	計		第一学級		第一学級		種別
	女	男	女	男	女	男	体性
女 男							第一学年
一二一、八〇 三、二八	三七 、		、		三七 、		第二学年
	二九 、		、		二九 、		第三学年
欠席平均数 日々	二五 、		二五 、		、		第四学年
女 男							第五学年
一七、三六 〇、七二	一七 、		一七 、		一〇 、		第六学年
	一二 、		一二 、		六六 、		計
平均 女 男	一三〇 、		六四 、		一 、		担任教員
八六、五六 八二、〇〇 八六、四二				(教)笠原憲一郎		(雇)傳 營	

一、大正三年四月末日現在

出席平均数 日々	計		第一学級		第一学級		種別
	女	男	女	男	女	男	体性
女 男							第一学年
一〇三、二四 六、〇〇	三四 、		一 、		四一 、		第二学年
	五 、		二 、		一九 、		第三学年
欠席平均数 日々	一〇 、		一〇 、		一九 、		第四学年
女 男							第五学年
一九、六〇 二、〇〇	一九 、		一九 、		八 、		第六学年
	八 、		八 、		八四、〇四 七五、〇〇 八三、四九		計
平均 女 男	二二三 、		八 、				担任教員

一、大正七年四月末日現在

第一學級	種別		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	計	擔任教員
	女	男								
	一三	五九							一三 五九	(雇)施加壽

一、大正六年四月末日現在

出席平均數 日々	種別		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	計	擔任教員
	女	男								
計	女	男	二 四六						二 四六	
第三學級	女	男							四七	(教)本田四郎
第二學級	女	男							五六	(雇)傳營
第一學級	女	男	二 四六						二 四六	(雇)傳營
出席平均數 日々	女	男	二 四六						二 四六	
欠席平均數 日々	女	男	一三六、八八						一四九	
百中比例	女	男	一三六、八八						一四九	
平均	女	男	二 四六						二 四六	
計	女	男	二 四六						二 四六	

一、大正五年四月末日現在

出席平均數 日々	種別		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	計	擔任教員
	女	男								
計	女	男	三九						三九	
第二學級	女	男							二五	(教)加藤虎太郎
第一學級	女	男	三九						六四	(雇)傳營
出席平均數 日々	女	男	二二四、八八						一四六	
欠席平均數 日々	女	男	二二四、八八						一四六	
百中比例	女	男	二二四、八八						一四六	
平均	女	男	二二四、八八						一四六	
計	女	男	二二四、八八						一四六	

〔児童身体検査状況〕
児童身体検査状況（男）

（明治四十二年度分）

事項 ／年齢	検査人員	身長平均	体重平均	胸囲平均	脊柱			体格			眼疾 トラホーム 其他	耳疾	齲齒
					正	湾	屈	強	中	弱			
八年	三	三、七三	五、一三〇	一、八六	三			三			一		三
九年	二	三、八七	五、三二〇	一、八四	二			一八	二	一	一三		一五
十年	一〇	四、〇二	五、八三〇	一、九二	一〇			八	二	七		一	六
十一年	一〇	四、〇九	六、三三〇	一、九五	一〇			九	一	五		一	二
十二年	八	四、一九	六、四三〇	一、九四	八			八		四			二
十三年	一〇	四、四二	七、五七〇	二、〇七	一〇			一〇		五			
十四年	三	四、六九	八、四五〇	二、一六	三			二	一	二			
十五年	八	四、五三	七、九二〇	二、一四	八			七	一	五			
十六年	三	四、八七	九、六七〇	二、二六	三				三	二			一
十七年	一	四、九五	一〇、四五〇	二、四〇	一				一	一			一
十八年													
十九年	二	五、三九	一一、一〇〇	二、三六	二				二	二			一
二十年	一	五、四八	一二、七〇〇	二、五〇	一				一	一			
計	八〇				八〇			七〇	九	四八		二	三一

出席平均数 日々	計		第四学級		第三学級		第二学級	
	女	男	女	男	女	男	女	男
女 男								
一六五、九二 一二、四四	一三	五九						
		四一					四一	
欠席平均数 日々		二七				二七		
	女 男							
一五、〇八 〇、五六		一八				一八		
		一九		一九				
百中比例		一四		一四				
	平均 女 男	一七八 一三	三三 一	四五 一	四一 一			
九一、九四 九五、七〇 九一、六七			（雇）傳 營	（雇）張 柏 崧	（雇）陳 科			

検査人員	事項 年 齢
六	八年
七	九年
一〇	十年
九	十一年
一一	十二年
九	十三年
一二	十四年
二	十五年
四	十六年
一	十七年
一	十八年
一	十九年
一	二十年
六三	計

児童身体検査状況(男)
(明治四十四年度分)

備考 校醫不在ニ付疾病欄ヲ記入セズ	疾病 脾腫 其他	耳疾	眼疾 トフホム 其他	体格 弱 中 強	脊柱 屈 湾 正	胸開平均	体重平均	身長平均	検査人員	事項 年 齢
							一九、一五	一三、五〇 二六、七五	四	八年
							二〇、七五	二〇、八五	六	九年
							二一、一五	二二、三三	四	十年
							二二、六四	二三、三二	一四	十一年
							一七、六〇	一三、〇七五	七	十二年
							二五、四八	一三、〇一七	六	十三年
							一七、一七	一五、三三	三	十四年
							三五、〇五	一四、一五〇	二	十五年
							三五、二五	一四、七〇〇	二	十六年
							三三、七〇	一四、五〇〇	一	十七年
										十八年
										十九年
										二十年
									四九	計

児童身体検査状況(男)
(明治四十三年度分)

備考	疾病 脾腫 其他	
		一
		一
	一	
	一	
	一	一
	一	
	五	三

児童身体検査状況（男）
（明治四十五年度分）

事項	検査人員	身長平均	体重平均	胸囲平均	脊柱			体格		
					正	湾	屈	強	中	弱
八年	三	一二・二五	一七・一七	五八・八三	三			一	二	
九年	二五	一一・〇〇	一九・四六	五八・八一	二五				一九	二
十年	一四	一二・〇〇	二一・五四	六〇・〇一	一四			七	七	
十一年	一七	一二・四・五三	二二・八二	六〇・九一	一七			二	六	
十二年	一二	一二・六・五〇	二三・七六	六一・四九	一二			五	六	一
十三年	一三	一三・三・三三	二八・三九	六三・九八	一二	一		五	七	一
十四年	七	一三・五・五〇	二七・二六	六〇・六一	七			六	一	
十五年	一	一四・〇・五〇	三一・〇〇	六六・五〇	一					一
十六年	二	一四・五・〇〇	三二・五〇	六七・五〇	二				二	
十七年	一	一四・六・五〇	三五・五〇	七五・五〇	一			一		
十八年										
十九年	一	一三七・〇〇	二九・三〇	六七・五〇	一			一		
二十年										
計	九六				九五	一		四一	九〇	五

備考 耳疾ハ何レモ中耳漏ナリ

身長平均	体重平均	胸囲平均	脊柱			体格			眼疾	耳疾	齲齒	疾病	
二、四八	一八五八	五五、九一	正	灣	屈	強	中	弱	其他 トラホーム			脾腫	其他
二、四八	二〇、五〇	五五、八四	七				一	五	五		六		
二、四七二	二二、八四	六〇、三五	一〇				四	一	四	二	六		
二、四七二	二二、六八	五九、一二	九				二	五	三	一	九		
二、四〇六	二五、二九	六六、一四	九		一	一	四	五	二		八		
二、四一七	二七、〇二	六六、八三	八				四	一	五		二		
二、四一五	二六、一〇	六〇、五〇	二			一	一	一	二		一		
二、四〇〇	二六、八〇	六六、七五	二			一	一	一	一	一			
二、四二五	三八、二三	七二、三八	三		一	二	一	一	三		二		
二、四〇〇	四〇、三〇	七五、五〇	一					一	一		一		
二、三、五〇	二六、一〇	六三、五〇	一				一		一				
二、四〇〇	四一、五〇	七九、〇〇	一				一		一		一		
二、四〇〇	四一、五〇	七九、〇〇	一				一		一		一		
二、四〇〇	四一、五〇	七九、〇〇	一				一		一		一		

備考	疾病 其他 脾腫		鰓 腺	耳 疾	眼疾 其他 トラホーム		体 格 弱 中 強			脊 柱 屈 湾 正			胸 開 平 均	体 重 平 均	身 長 平 均	檢 査 人 員	事 項 年 齡	
				九	一	一	六		四	五		九	一、八七	四、八三	三、六八	九	八年	
			五			三		二	四			六	一、九一	五、二五〇	三、七八	六	九年	
	一		二二	一		二二		二二	二二			二二	一、九六	五、六六九	三、九六	一二	十年	
			一〇			九		五	六			一一	二、〇三	六、一八二	四、一一	一二	十一年	
	一		八	二		四		四	九			一三	二、〇四	六、三五六	四、一八	一三	十二年	
	一		五		一	六		二	七			九	二、一二	七、二三三	四、三四	九	十三年	
			三			八	一	四	五			一〇	二、一五	七、五八〇	四、五〇	一〇	十四年	
			一	一		六		二	五			七	二、二七	九、一六一	四、七八	七	十五年	
						三		一	二			三	二、二九	八、九三七	四、六九	三	十六年	
																	十七年	
																	十八年	
																	十九年	
						一			一				二、三三	八、九〇〇	四、七二	一	二十年	
	三		六二	五	二	五七	一	三五	五五			九一				九一	計	

児童身体検査状況(男)
(大正二年度分)

備考	疾病 其他 脾腫		鰓 腺	耳 疾	眼疾 其他 トラホーム	
				一	一	二
			二三	一		一〇
			一〇			一〇
	一	一	一四	二	一	四
			七			八
			六			一二
			二	一		四
						一
			一			二
						一
						一
	一	一	六四	五	二	五五

児童身体検査状況（男）

（大正三年度分）

事項 年齢	検査人員	身長平均	体重平均	胸囲平均	脊柱 湾正	体格 弱中強	眼疾 トラホトム 其他	耳疾	歯齦	疾病 脾腫 其他	備考
八年	六	三、六六	四、七〇八	一、八三	六	二四	六		六	二	
九年	八	三、八四	五、一八四	一、八六	八	二五	七		八	四	
十年	九	三、八九	五、四三二	一、九二	九	二七	五		八	二	
十一年	二〇	三、八八	六、一一八	二、〇〇	二〇	一〇	一八		一八	六	
十二年	二一	四、二二	六、六二八	二、〇四	二一	六	九	一	五	三	
十三年	二二	四、三〇	六、八〇四	二、〇七	二二	九	六			一五	
十四年	一〇	四、五一	七、七八一	二、一七	一〇	八	五			三	
十五年	一〇	四、七五	八、六四二	二、二一	一〇	六	五	一		二五	
十六年	三	四、四九	八、五〇〇	二、二四	三	三	三				
十七年	一	五、一〇	一〇、四〇〇	二、三八	一	一	一				
十八年	二	四、九八	一〇、五七五	二、四二	二	二	二				
十九年											
二十年											
計	九二				九二					一九五八	

児童身体検査状況（男）

（大正四年度分）

事項 年齢	検査人員	身長平均	体重平均	胸囲平均	脊柱 湾正
八年	九	三、五七	四、七七二	一、七八	一八
九年	一六	三、七二	四、九三二	一、七九	一四
十年	一四	三、九五	六、一一〇	一、八九	一四
十一年	九	四、〇四	五、九三〇	一、九五	九
十二年	一八	四、一六	六、五三七	一、九六	一七
十三年	一一	四、三一	七、〇〇三	二、〇五	一一
十四年	一〇	四、四二	七、二七九	二、〇八	一〇
十五年	六	四、九四	八、二二三	二、一六	四
十六年	四	四、九四	一〇、〇六三	二、三〇	四
十七年					
十八年					
十九年					
二十年					
計	九七				九一

備考

疾病 其他	脾腫	齲齒	耳疾	眼疾 其他 トラホーム	体格			脊柱 屈 湾 正			胸囲平均	体重平均	身長平均	検査人員	事項 年 齡
					弱	中	強	屈	湾	正					
			二			二				二	一、九〇	四、九五〇	三、七〇	二	八年
	一	七		八		五	六			一一	一、九二	五、二六四	三、七四	一一	九年
	七	一二		一五		一五	三			一八	一、九三	五、三九七	三、八四	一八	十年
二	七	四	一	三		八	九			一七	一、九九	六、〇一八	四、〇〇	一七	十一年
二	五	六		六		三	七			一〇	二、〇二	六、二二五	四、〇九	一〇	十二年
二	八	九		一五		一一	一〇	一		二〇	二、〇五	七、〇一〇	四、二四	二二	十三年
二	四	三	一	八		五	六			一一	二、一〇	七、二八二	四、四〇	一一	十四年
三	二			三		二	二			四	二、二七	七、七六三	四、六〇	四	十五年
	三	二		五		二	六	一		七	二、二七	八、九〇六	四、六九	八	十六年
		一		一		二	二			二	二、四九	一三、四四五	五、三四	二	十七年
															十八年
															十九年
		一		一			二			二	二、七〇	一三、七五	五、四〇	二	二十年
一一	三七	四六	一	七六		五三	五三	二		一〇四				一〇六	計

児童身体検査状況(男)
(大正五年度分)

備考

疾病 其他	脾腫	齲齒	耳疾	眼疾 其他 トラホーム	体格			胸囲平均	体重平均	身長平均	検査人員	事項 年 齡
					弱	中	強					
		六		八		五	四					
一	一	八		二	二	一〇	四					
三	四	九	一	二	八	六	八					
一	一	六		六		三	六					
二	六	九		一四		一四	四					
三	六	四		一〇		五	六					
	三	二		八		七	三					
	一	二		五		三	三					
		二		三		三	一					
一〇	二三	(四八)	一	四	七	二	三					

児童身体検査状況

(大正六年度分)

事項 年齢	検査人員	身長平均	体重平均	胸囲平均	脊柱 湾正	体格 弱中強	眼疾 トラホム 其他	耳疾	齲齒	疾病 脾腫 其他	備考
八年	七	三、六二	四、七〇六	一、七四	七	三	四		六	一	
九年	一五	三、七四	五、一二三	一、八五	一五	三	一	一	一〇	二	
十年	一二	三、八四	五、四三	一、八八	一二	二	九	七	七	五	
十一年	二三	三、九九	六、一三〇	一、九九	二三	六	一七	一	一四	八	
十二年	一六	四、二二	六、七六三	二、〇一	一六	一四	二	一〇	四	四	
十三年	一一	四、二六	六、九四五	二、〇六	一一	八	三	五	二	四	
十四年	一五	四、三六	七、二六二	二、〇九	一四	九	六	二	三	三	
十五年	五	四、四四	七、六二〇	二、一〇	五	三	二	四	三	一	
十六年	四	四、八〇	九、二八八	二、一五	四	二	二	三	一		
十七年	〇一	四、七六	八、八五〇	二、二八	一	一	一	一		一	
十八年	一	五、〇三	九、九〇〇	二、三四	一		一		一		
十九年											
二十年											
計	一〇九				一〇八	一	五〇	一	五八	二七	一一

児童身体検査状況

(大正七年度分)

事項 年齢	検査人員	身長平均	体重平均	胸囲平均	脊柱 湾正
八年	一四	三、五二	四、八七四	一、八二	一四
九年	一九	四、〇〇	五、一八一	一、八五	一九
十年	一六	四、〇四	五、七六	一、九二	一六
十一年	一八	三、九〇	五、八三	一、九二	一八
十二年	二九	四、一八	六、五九	二、〇〇	二六
十三年	一六	四、二五	六、八三三	二、〇五	一九
十四年	一三	四、四一	七、六三	二、一六	一三
十五年	六	四、五三	七、八六九	二、一四	一三
十六年	一三	四、六一	八、三五八	二、一八	六
十七年	三	四、七六	八、七二七	二、二五	三
十八年	二	五、一八	二、二五〇	二、四五	二
十九年	一	五、一四	二、五〇〇	二、四〇	一
二十年					
計	一五〇				一五〇

校長在職年調

就職年月日	官職名	族籍	氏名	生年月日	移動	在職年月
明治三十四年 二月二十八日	教諭兼校長	和歌山県 土族	酒井達	慶応元年 六月	明治四十三年六月十五日 死亡	九年四ヶ月
明治四十三年 六月二十五日	教諭兼校長 事務取扱	京都府 平民	小野邦彦	明治十六年 十月 日	明治四十五年二月十九日 荅雅齋公学校長トナル	一年九ヶ月
明治四十五年 二月十九日	教諭兼校長	埼玉県 土族	小田平六	明治二年 十二月 日	大正五年十月 日埔荒崙 公学校転勤	四年十ヶ月
大正五年 (十二)月(六)日	全	(広島県 平民)	大苗大雅	(明治十八年 三月二日)	大正六年四月一日分離	
大正六年 四月一日	全	茨城県 平民	高岡武明	明治三十二年 四月三十一日		

学校概況表

〔後掲「学校概況表」の電子複写のため略〕

[illegible]

職員在職年調

就職年月日	官職名	族籍	氏名	生年月日	移動	在職年月
明治四十年十二月二十八日	教諭	沖繩県平民	長嶺牛清	明治十四年三月五日	明治四十三年九月十日蕭壠公学校長拜命	二年十ヶ月
明治四十一年四月二十日	雇	本島人	傳 營	明治二十二年十一月十七日		
明治四十三年八月二十五日	教諭	愛媛県平民	大野石太郎	明治二十一年十月十五日	大正二年八月十三日林仔邊公学校長拜命	三年一ヶ月
大正二年八月十九日	教諭	新潟県平民	笠原憲一郎	明治二十三年一月二十三日	大正五年四月一日安順寮公学校長拜命	二年九ヶ月
大正三年十一月三日	雇	全	清水リウ	明治二十九年七月二十六日	大正五年四月一日安順寮公学校ニ転勤	一年六ヶ月
大正五年四月一日	教諭	埼玉県士族	加藤虎太郎	明治二十七年十月十二日	大正六年四月一日新市分校ニ転勤	一年〇月
大正六年五月二日	雇	本島人	張柏松	明治三十一年一月三日		
大正六年九月二十五日	雇	全	施加壽	明治三十二年十二月七日	大正七年九月十四日依願免職	一年〇月
大正七年三月三十一日	雇	全	陳 科	明治三十三年六月二十二日		
十一月二十二日	訓導心得	全	楊文森	明治三十三年三月十三日		

校長賞罰調

年月日	賞罰事項	官職名	氏名
明治四十年十二月二十一日	職務格別勉勵ニ付金五拾円ヲ賞与ス	教諭兼校長	***
全 四十一年十二月廿一日	上金六拾七円ヲ賞与ス	全	全
全 四十二年十二月廿一日	上金六拾七円ヲ賞与ス	全	全
全 四十三年六月十二日	上金貳百五拾円ヲ賞与ス	全	全

職員賞罰調

年月日	賞罰事項	官職名	氏名
明治四十一年十二月廿一日	職務格別勲ニ付金参拾八円ヲ賞与ス	教諭	*****
明治四十二年十二月廿一日	全 上金五拾貳円ヲ賞与ス	全	全
全 四十四年十二月廿一日	全 上金四拾四円ヲ賞与ス	全	*****
全 四十四年十二月廿一日	全 上金参拾七円ヲ賞与ス	全	全
大正元年十二月廿一日	全 上金七拾四円ヲ賞与ス	全	全
全 二年十二月廿一日	全 上金四拾四円ヲ賞与ス	全	*****
全 三年十二月廿一日	全 上金七拾四円ヲ賞与ス	全	全
全 四年十二月廿一日	全 上金六拾五円ヲ賞与ス	全	全
全 五年十二月廿一日	全 上金	全	*****
全 四年十二月廿一日	全 上金拾壹円ヲ賞与ス	雇	*****
全 六年十二月廿一日	全 上金参円ヲ賞与ス	全	*****
明治四十一年十二月廿一日	職務格別勲ニ付金拾四円ヲ賞与ス	雇	***
全 四十二年十二月廿一日	全 上金拾貳円ヲ賞与ス	全	全

全 四十四年十二月廿一日	全 上金四拾七円ヲ賞与ス	教諭兼校長事務取扱	*****
全 四十四年十二月廿一日	全 上金六拾四円ヲ賞与ス	全	全
大正元年十二月廿一日	全 上金百拾四円ヲ賞与ス	教諭兼校長	*****
全 二年十二月廿一日	全 上金八拾五円ヲ賞与ス	全	全
全 三年十二月廿一日	全 上金	全	全
全 四年十二月廿一日	全 上金	全	全
全 五年十二月廿一日	全 上金	全	*****
大正六年十二月廿一日	職務格別勲ニ付金	全	*****
全 七年十二月廿一日	全 上金	全	全

学務委員在職年調

大正七年	大正七年八月 二十七日死亡	明治四十一年 二月十二日	明治四十一年 二月十二日	就職年月日	族籍	氏名	生年月日	移動	在職年月
全	全	本島人	楊左泉				明治八年 十月十四日	大正六年五月十一日御用済ニ付大目降公学校学務 委員ヲ免ジ同時ニ山仔頂公学校学務委員ヲ命ス	
張 燦	陳大海		明治十三年 九月二十五日		全 上				十年七ヶ月
大正七年 十二月二十八日									

年月日	賞罰事故 ^(マヤ)	官職名	氏名
大正七年十二月廿一日	事務格別勲励ニ付金九円ヲ賞与ス	訓導心得	***
大正六年十二月廿一日	事務格別勲励ニ付金七円ヲ賞与ス	雇	***
全 七年十二月廿一日	全 上金拾貳円ヲ賞与ス	全	全
全 六年十二月廿一日	全 上金貳拾五円ヲ賞与ス	全	全
全 五年十二月廿一日	全 上金拾九円ヲ賞与ス	全	全
全 四年十二月廿一日	全 上金拾八円ヲ賞与ス	全	全
全 三年十二月廿一日	全 上金貳拾円ヲ賞与ス	全	全
全 二年十二月廿一日	全 上金拾貳円ヲ賞与ス	全	全
大正元年十二月廿一日	全 上金拾七円ヲ賞与ス	全	全
全 四十四年十二月廿一日	全 上金八円ヲ賞与ス	全	全
全 四十四年十二月廿一日	全 上金拾四円ヲ賞与ス	全	全

学務委員賞罰調

年月日		賞罰事項		氏名	
明治四十一年十二月廿一日	全	職務格別勉勵ニ付金拾円ヲ賞与ス		***	
全 四十三年十二月廿一日	全	上金拾円ヲ賞与ス		全	
全 四十四年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 四十五年三月卅一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
大正元年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 二年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 三年十二月廿一日	全	上金六円ヲ賞与ス		全	
全 四年十二月廿一日	全	上金六円ヲ賞与ス		全	
全 五年十二月廿一日	全	上金九円ヲ賞与ス		全	
全 六年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 七年八月 日	全	上金拾五円ヲ賞与ス		全	
全 七年十二月廿一日	職務格別勉勵ニ付金六拾円ヲ賞与ス			***	
大正元年十二月廿一日	全	上金九円ヲ賞与ス		全	
全 二年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 三年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 四十四年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 四十五年三月卅一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
明治四十一年十二月廿一日	職務格別勉勵ニ付金拾円ヲ賞与ス			***	
全 四十三年十二月廿一日	全	上金拾円ヲ賞与ス		全	
全 四十四年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 四十五年三月卅一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
大正元年十二月廿一日	全	上金九円ヲ賞与ス		全	
全 二年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 三年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 四年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 五年十二月廿一日	全	上金九円ヲ賞与ス		全	
全 六年十二月廿一日	全	上金八円ヲ賞与ス		全	
全 七年十二月廿一日	全	上金拾円ヲ賞与ス		全	

大正六年度學級並受持表

學級	学年	級式	学年初 在籍 児童数	入学 児童数	退学 児童数	学年末 在学 児童数	年中出席 歩合	合格 児童数	不合格 児童数	学業 成績	操行評定				身体評定				官職	氏名	受持 月数
第一 學級	第一学年	单式	三	四六	九	四〇	八八・七九	三四	六	七・二	甲	乙	丙	丁	計	強	中	弱	計		
第二 學級	第三学年	複式	五六	三	七	五二	九〇・六五	四三	九	七・三	一二	三二	八	一	五一	二二	三〇	一	五一	雇	傳 營
第三 學級	第四五六学年	〃	四七	一	五	四三	八六・三四	三八	五	六・八	七	三二	四	一	四三	二七	一六	一	四三	教諭	本田四郎
計			一〇六	五〇	二二	一三五	八八・七一	一一七	一八	七・一	二九	八二	一三	一	一三五	六五	六九	一	一三五		

備考

大正六年度合格不合格児童

× 減 △ 増

學年別	在籍兒童數			合格兒童數			不合格兒童數			合格兒童百分比比例		
	本年度	前年度	增減	本年度	前年度	增減	本年度	前年度	增減	本年度	前年度	增減
第一學年	四〇	三六	△四	三四	二九	△五	六	七	×一	八五、〇〇	八〇、五六	△四、四四
第二學年	二九	二六	△三	二四	一九	△五	五	七	×二	八二、七六	七三、〇八	△九、六八
第三學年	二三	二六	×三	一九	二〇	×一	四	六	×二	八二、六一	七六、九二	△五、六九
第四學年	一九	一六	△三	一八	一二	△六	一	四	×三	九四、七三	七五、〇〇	△一九、七三
第五學年	一五	一二	△三	一四	八	△六	一	四	×三	九三、三三	六六、六七	△二六、六六
第六學年	九	一三	×四	六	一一	×五	三	二	△一	六六、六七	八四、六二	×一七、九五
計	一三五	一二九	△六	一二五	九九	△一六	二〇	三〇	×一〇	八五、一九	七六、七四	△八、四五

大正六年度各月児童出席歩合

×	△
減	増

学 年		月 別	
第一学年	本年度	九一五〇	四月
	前年度	八五七九	
	増減	△五七一	
第二学年	本年度	九〇九四	
	前年度	九〇五二	
	増減	△〇四二	
第三学年	本年度	九二二七	
	前年度	八七六五	
	増減	△六六二	
第四学年	本年度	九三三四	
	前年度	八一〇〇	
	増減	△二三四	
第五学年	本年度	九三四四	
	前年度	七八〇〇	
	増減	△二五四	
第六学年	本年度	八四二〇	
	前年度	九一六九	
	増減	×七四九	
平均	本年度	九二一九	
	前年度	八五七六	
	増減	△五四三	

大正六年度児童操行調

× 減 △ 増

学年	在籍児童数			甲			乙			丙			丁		
	本年度	前年度	増減	本年度	前年度	増減	本年度	前年度	増減	本年度	前年度	増減	本年度	前年度	増減
第一学年	四〇	三六	△四	一〇	七	△三	一九	二六	×七	一一	三	△八	一	一	一
第二学年	二九	二六	△三	七	七	一	一六	一六	一	六	三	△三	一	一	一
第三学年	二三	二六	×三	五	七	×二	一六	一六	一	二	三	×一	一	一	一
第四学年	一九	一六	△三	二	四	×二	一四	一〇	△四	三	二	△一	一	一	一
第五学年	一五	一二	△二	三	二	△一	一二	一〇	△二	一	一	一	一	一	一

操行学業出席共ニ本校児童模範タルモノ	一	第一学年	本 年 度	前年度	増 減		
操行学業出席共ニ優良ナルモノ	二	第二学年		五			
操行学業出席共ニ優良ナルモノ	二	第三学年		二			
操行学業共ニ優良ナルモノ	二	第四学年		一			
操行出席共ニ優良ナルモノ	二	第五学年		一			
本学年間精勤ナルモノ	一	第六学年		一			
一学年ヨリ卒業マデ皆出席ノモノ	二	計		三七			
計	九	六	六	二	三八	三三	×五
	一	一	一	一	一	七	×三
	二	二	二	二	一	三	△四
	三	二	一	一	一〇	六	×二
	四	一	一	一	一〇	二	×五

大正六年度受賞児童

× 減 △ 増

[illegible]

備考 学年末在学児童数一八九名中卒業生一三名ヲ含ム

計	第四 学級	第三 学級	第二 学級	第一 学級	学級
	第五六 学年	第三四 学年	第二学 年	第一学 年	学年
	〃	複式	〃	単式	級式
	二六	三六	三九	五	学年初 在籍 児童数
	七四		二	七二	入学 児童数
	一一	三	二	四	退学 児童数
	一八九	三三	三九	七三	学年末 在学 児童数
	八四、五二	八七、一五	八七、〇六	七九、三〇	年中出席 歩合
	一六六	三一	三八	六〇	合格 児童数
	二三	二	二	一三	不合格 児童数
	六九	六八	七三	六八	学業 成績点
	四一	九	一二	一一	甲
	一〇二	二三	一六	三七	乙
	四六	二	一四	二五	丙
					丁
	一八九	三三	三九	七三	計
	九一	二四	一九	二三	強
	九一	九	一八	四六	中
	七一		二	五	弱
	一八九	三三	三九	七三	計
	教	訓心	訓心	訓心	官職
	本田四郎	傳營	張柏松	陳科	氏名
	一三	一二	一二	一二	月数 受持

大正七年度学級受持表

×減 △増

性体			実業ニ従事	学校入学 上級ノ学校へ入学	
計	女	男			
一二	一	一二			業農
					業工
五	一	五	業商		
一七	一	一七	計		
			校学語国		
			校学女属附		
			校学医		
			場験試事農		
			所習講業工		
			場験試業糖		
一	一	一	校学中立公立私他其ハ又		
			学留地内		
一	一	一	科業実校他		
二	一	二	計		
			務公ハ又庁官		
二	一	二	員教校学		
二	一	二	計		
一	一	一	社会ハ又行銀		
一	一	一	他其ハ又店商		
二	一	二	計		
三	一	三	事従事家		
			定未業職		
三	一	三	亡死		
二九	一	二九	計合		

卒業者ノ状況

×減 △増

計	第六 学年
一三五	九
二二九	一三
△六	×四
二九	二
三一	四
×二	×二
八二	五
八六	八
×四	×三
二四	二
一二	一
△一二	△一

大正七年度合格不合格児童

△増
×減

学年別	在籍児童数		合格児童数		不合格児童数		合格児童百分比例	
	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度
第一学年	七三	四〇	△三三	六〇	三四	△二六	八一、一九	八五、〇〇
第二学年	三九	二九	△一〇	三七	二四	△一三	九四、八七	八二、七六
第三学年	二六	二三	△三	二二	一九	△三	八四、六二	八一、六一
第四学年	一八	一九	×一	一六	一八	×二	八八、八九	九四、七三
第五学年	一九	一五	△四	一八	一四	△四	九四、七四	九三、三三
第六学年	一四	九	△五	一三	六	△七	九二、八六	六六、六七
計	一八九	一三五	△五四	一六六	一一五	△五一	八七、八三	八五、一九

大正七年度各月児童出席歩合

△増
×減

学年	月別	第一学年		第二学年		第三学年		第四学年		第五学年		第六学年		平均
		本年度	前年度	増減	本年度	前年度	増減	本年度	前年度	増減	本年度	前年度	増減	
四月	九四〇五	九二五〇	△一五五	八五六六	九〇九四	×五八	九〇五七	九七八三	九三五四	△四五九	九三、三	八四、二〇	△八九三	九一九四
五月	九四九三	八九四一	△五五二	九〇九六	八九五八	△二三八	九二二	九七七三	八六五五	△一一一八	九七四七	八七、七五	×九七三	九五一四
六月	八八七二	九二七〇	×三九八	九二二七	八七五七	△四六〇	九三六七	九二八三	△二八四	九六〇六	七七、三八	△一八六七	×九〇五	八八三九
七月	六九九五	八三七五	×一七八〇	八四、元	八〇三八	△三九一	七七三〇	八三、五〇	×六二〇	八五八八	八〇八三	△五〇五	七、五〇	七四九三
八月	七五五〇	八四六六	×九一六	九一八八	八四〇〇	△七八八	八九八二	九一、五四	×二七二	九四八九	八五、一〇	△九七九	七四、七五	八四七〇
九月	七九八五	九〇二四	×一〇二九	九一、五	八五三八	△五八七	八九五八	九六、〇〇	×六四二	九七、三	八八三八	△八八四	七、五	八七、七六
十月	六二九二	八三七二	×二一八〇	八二、四	九三、七	×一〇五三	七八七	八八、三	×一〇四五	八七、〇〇	八七、八一	×一〇八一	七、五三	八六、八
十一月	五四三三	九〇〇〇	×三五七六	七四、七	九三、五	×一七三三	七〇、九二	九四、五七	×三六五	七六、六	九一、〇五	×二四九	七、〇四七	九一、五四
十二月	七五九二	八五九七	×一〇〇五	八三、五	九三、九	×九三三	八八、六二	九六、八三	×四二二	九二、二	九一、二一	×四〇〇	八八、二六	九〇、五二
一月	七六二二	八六〇八	×九八六	八八、八	八七、四	△八七	八八、二	九三、五七	×五三五	九〇、八三	九六、二一	×一六四	八七、二	八八、八一
二月	八三〇三	九三二二	×一〇一九	九〇、三	九五、〇	×四八	九三、四六	九五、四八	×二〇二	九三、七	九七、六	×三五四	八六、九五	八八、〇八
三月	七九三〇	八八七九	×九四九	八七、〇六	八九、三	×二二六	八八、〇二	九六、〇	×四五八	九二、七	八八、四一	△三、七六	八八、八九	八八、七二
計	七九三〇	八八七九	×九四九	八七、〇六	八九、三	×二二六	八八、〇二	九六、〇	×四五八	九二、七	八八、四一	△三、七六	八八、八九	八八、七二

学年	在籍兒童數		甲			乙			丙			丁		
	本年度	前年度												
第一學年	七三	四〇	△三三	一一	一〇	△一	三七	一九	二五	一一	△一四			
第二學年	三九	二九	△一〇	九	七	△二	一六	一六	一四	六	△八			
第三學年	二六	二三	△三	六	五	△一	一六		四	二三	△二			
第四學年	一八	一九	×一	六	二	△四	一一	一四	一	三	×二			
第五學年	一九	一五	△四	五	三	△二	一二	一二	二		△二			
第六學年	一四	九	△五	四	二	△二	一〇	五		二	×二			
計	一八九	一三五	△五四	四一	二九	△二二	一〇二	八二	四六	二四	△三二			

大正七年度兒童操行調
×減 △增

学年	学科	修身		話方		読方		綴方		書方		算術		漢文		理科		図画		農業		唱歌		体操		地理		年	令
		増減	前年度	計	増減	前年度	計	増減	前年度	計	増減	前年度	計	増減	前年度	計	増減	前年度	計	増減	前年度	計	増減	前年度	計	増減	前年度		
第一学年		×〇、三	六、八	六、五	七、〇	六、九	七、一	六、八	六、七	七、二	六、八	六、六	六、七	六、九	六、八	六、五	六、四	七、一	六、八	六、八	六、七	七、一	七、四	七、三	七、〇	六、八	六、八	九	
第二学年		×〇、一	七、〇	六、九	六、九	七、〇	六、八	六、八	七、〇	七、四	七、四	七、五	六、五	六、五	六、八	七、一	七、四	七、五	七、六	六、八	六、七	七、六	七、五	七、二	七、〇	六、七	六、七	一	
第三学年		△〇、一	七、〇	七、一	七、一	七、二	七、八	七、三	七、〇	七、七	七、七	六、七	六、七	七、四	七、四	七、五	七、五	七、五	七、八	七、四	六、八	七、八	七、六	七、二	七、九	六、七	六、七	二	
第四学年		×〇、一	六、八	七、一	七、二	七、二	八、四	七、七	八、四	八、四	八、四	六、七	六、七	七、四	七、四	七、五	七、五	七、九	七、九	六、八	六、七	七、八	七、六	七、二	七、九	六、七	六、七	三	
第五学年		△〇、一	六、七	六、八	六、八	六、九	七、〇	六、七	七、〇	七、〇	七、〇	六、六	六、七	六、九	六、九	六、五	六、四	六、七	六、七	六、八	六、八	六、九	七、五	七、三	七、〇	六、八	六、八	四	
第六学年		×〇、一	七、〇	六、九	六、九	七、一	七、二	六、八	六、七	七、二	七、二	六、八	六、八	六、九	六、九	六、五	六、四	六、七	六、七	六、八	六、八	七、一	七、四	七、三	七、〇	六、八	六、八	一	
計		△〇、一	六、七	六、八	六、八	六、九	七、〇	六、七	六、七	七、〇	七、〇	六、六	六、七	六、九	六、九	六、五	六、四	六、七	六、七	六、八	六、八	七、一	七、四	七、三	七、〇	六、八	六、八	一	
前年度		×〇、一	六、八	七、一	七、二	七、二	八、四	七、七	八、四	八、四	八、四	六、七	六、七	七、四	七、四	七、五	七、五	七、九	七、九	六、八	六、七	七、八	七、六	七、二	七、九	六、七	六、七	二	
増減		×〇、三	六、八	六、五	六、四	六、五	六、五	六、八	七、一	七、四	七、四	六、七	六、七	六、九	六、九	六、五	六、四	六、七	六、七	六、八	六、八	七、一	七、四	七、三	七、〇	六、八	六、八	一	
		×	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	
																												月	

大正七年度各学年兒童成績平均並年齡
×減 △增

大正七年度受賞児童調

× 減 △ 増

種別	本年度						前年度	増減
	第一学年	第二学年	第三学年	第四学年	第五学年	第六学年		
操作学業出席共ニ本校児童模範タルモノ	一	一	一	一	一	一	一	一
操作学業出席共ニ優良ナルモノ	九	二	一	二	一	一	一〇	×五
操作学業共ニ優良ナルモノ		五	三	三	三	四	二七	△一六
操行出席共ニ優良ナルモノ		二	一		一		三	一
本学年間精勤ナルモノ			一				四	×二
一学年ヨリ卒業マデ皆出席ノモノ	一〇	八	四	六	五	四	二七	△九
計								

卒業者ノ状況

× 減 △ 増

性体	業農	業工	業商	計	実業ニ従事	上級ノ学校ヘ入学	学校入学	官公吏	他ヘ雇ハル
計	八	一	八	一六	一四	一	一	一	一
女									
男									
校学語国									
校学女属附									
校学医									
場験試事農									
所習講業工									
場験試業糖									
校学中立公立私他其ハ又									
学留地内									
科業実校他									
計	二	一	二	二	二	一	一	一	一
務公ハ又庁官									
員教校学	五	一	五	五	五	一	一	一	一
計	五	一	五	五	五	一	一	一	一
社会ハ又行銀	二	一	二	二	二	一	一	一	一
他其ハ又店商	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	三	一	三	三	三	一	一	一	一
事従事家	六	一	六	六	六	一	一	一	一
定未業職	一	一	一	一	一	一	一	一	一
亡死	四	一	四	四	四	一	一	一	一
計合	三五	一	三五	三五	三五	一	一	一	一

大正七年度学事報告

在籍児童数	本年度末在籍児童数ハ男百六十一名女十五名合計百七十六名ニシテ之レヲ昨年度末ノ百二十九名ニ比スレバ四十七名ノ増加アリ
入退学児童数	入学児童数ハ第一学年七十二名第二学年二名計七十四名ニシテ昨年度ヨリ二十四名多シ退学児童数ハ全学年ヲ通ジテ十一名、昨年度ハ二十一名アリタリ
出席百分比	出席百分比例ハ八四、五ニシテ昨年度ノ八八、七一ニ比スレバ四、一九ノ減ヲ見ル、而シテ最も優良ナルハ第四学年ノ九二、七ニシテ不良ナルハ第一学年ノ七九、三〇トス
例	コレ本年度ニ於テハ流行性感冒ノ罹病者多数ナリシニ依ルモノトス
合格不合格児童数	合格児童数ハ百六十六名 不合格児童数ハ二十三名ニシテ昨年ヨリハ三名ノ増加アリ
学業成績	学業成績ハ年ヲ追フテ進歩シツ、アリト雖モ未ダ良好ナル効果ヲ得ルコト能ハズ今後学業ノ向上ニ就イテハ一層ノ努力ヲ要スルモノナリ而シテ成績総平均ハ六、九ニシテ最も不良ナルハ算術科ノ成績ナリ
賞与児童数	賞与児童数ハ各学年ヲ通ジテ三十六名ニシテ操行学業出席共ニ優良ナルモノ五名、操行学業優良ナルモノ二十七名、操行出席共ニ優良ナルモノ三名、本学年間精勤ナルモノ二名トス コレヲ昨年度ノ二十八ナリシニ比シ八名増加セリ

右大要報告ス

昭和二年度（学事記録）

月 日

事 項

一月十日

一月十四日

三月九日

三月二十五日

本日ヨリ各部落卒業生指導講習会ヲ開催（五日間）

各部落ノ卒業生ヲ学校ニ集メ教育点呼ヲ行フ

点呼後茶話会ヲ開キ午后九時終了セラル

マラリヤ防遏ノ為メ学校ノ囲ノ竹藪ヲ全部伐採セリ

伐リタル竹ヲ利用シテ学校ノ東前側ノ垣根ヲ修繕セリ

1. 第十回卒業証書受与式並進級式ヲ挙行ス

2. 本年度ノ卒業生児童

男三十名 女四名

3. 卒業ノ状況調

4. 児童成績調（昭和元年度）

出席	操行				学業				種別	学年末
計	女	男	丁	丙	乙	甲	丁	丙	乙	甲
七七、九二	七一、五七	七九、九四	、	一	四九	九	、	一〇	三八	一一
八一、二九	七五、七九	七九、三九	、	八	四〇	六	、	八	三九	七
七七、四八	六五、二六	八二、一八	、	一二	二一	七	、	八	二七	五
七七、三二	六〇、一〇	八〇、六二	、	五	二八	七	、	一〇	二三	七
七一、七八	七六、八三	七二、四五	、	九	二四	五	、	一〇	二四	五
八一、八三	九七、〇〇	七九、〇一	、	、	二五	一五	一	一〇	二八	五
七八、一五	七二、一二	七九、五一	、	三五	一八七	四九	一	五六	一七九	四〇
										計

三月三十一日

昭和元年度児童異動表

栗原校長辞職

学年	第一学年	第二学年	第三学年	第四学年	第五学年	第六学年	合計
性別	計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男
前年度 未現在	一 一 三 八	二 二 四 八	六 一 一 五	七 二 二 五	三 一 三	一 一 一	三 九 一 〇 二 九
本年度中	入学者	六 〇 一 五 四 五	一 一 一				六 一 一 五 四 六
	前学年 進級者	一 一 一	四 八 一 〇 三 八	三 七 一 二 二 五	三 六 六 三 〇	四 四 四 〇	二 二 三 三 六 一 七 七
	計	七 一 一 八 五 三	六 一 一 四 四 七	四 三 一 三 三 〇	四 三 八 三 五	四 七 四 四 三	三 一 三 六 一 二 五 二
減	卒業者	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	三 四 四 三 〇
	本学年 修了者	四 九 一 〇 三 九	四 六 九 三 七	三 二 八 二 四	三 〇 三 二 七	三 四 二 三 〇	一 九 一 三 二 一 七 九
	半途 退学者	一 二 六 六	六 二 四	三 一 二	三 二 一	九 二 七	四 一 一 三 二 八
計		六 一 一 六 四 五	五 一 一 二 三 九	三 五 九 二 六	三 三 五 二 八	四 三 四 三 九	一 九 七 四 四 一 五 二
死亡		一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一
本年度 未現在		一 〇 二 八	八 三 五	八 四 四	一 〇 一 七	四 〇 四	四 六 一 二 三 四

四月一日

楊氏金玉（教員心得） 辞職

入学式入学児童数ハ（第一学年）男五一名 女四名

四月一日現在児童数及各学受持教員

学級 / 学年		第一学年		第二学年		第三学年		第四学年		第五学年		第六学年		計		受持教員
学級	学年	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計		
第六学級		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計		訓導 平川貞夫
第五学級		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計		訓導 林開発
第四学級		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計		准訓 張柏崧
第三学級		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計		准訓 林文理
第二学級		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計		准訓 田萬枝
第一学級		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計		受持教員
計		二 四 四	三 八	六 二	四 一	四 四	五 九	四 六	二	一 四	一 一	一 三	六	二 四 四	四 六	五 名

本年度学級編制

四月四日	平川校長着任（善化公学校ヨリ）
四月二十三日	中村訓導新市公学校へ転任の告別式挙行
四月二十四日	後任トシテ茄抜公学校ヨリ林開発訓導就任
六月二十六日	本校々舎ノ底及壁ガ一部分破壊シテキル為、破壊シタル ^(電) 底及壁ヲ全部修繕シタリ
六月二十八日	校内ニハ昔ノ喬木ガ ^(電) 無ク繁茂シテキルノデ幾分カ教室内ノ光線ヲサヘギツテキル為、校内ノ喬木中大部分ヲ伐取シタリ
九月二日	学校ノ東側ノ地ガ特ニ突低シテ他ノ地ト相平坦「シテキナイ」セズ為今日ヨリ略一ヶ月位児童及教師ノ力デ外側ヨリ土地ヲ運搬シ ^(電) □□ソレ□□埋足シタリ
九月十三日	学校前ノ垣根（東側ノ所）ヲ全部取り去リ新シイ仏桑花ヲ垣根トシテ植エタリ
十二月二十日	排水ヲ充分ナラシメル為、西側ニアル溝ヲ児童ト職員ト ^(電) 共力シテ深サ二尺位ノ土ヲ新ニ ^(電) 挙ゲタリ

昭和二年度経費

(A) 山上公学校費	一千六百七十三円也	(イ) 雑給	二百九十一円	(ロ) 需用費	九百三十一円
(イ) 修繕費	一百四十六円	(ハ) 借地借家料	四十円	(ニ) 旅費	二百七拾五円
(ホ) 学校諸費	一百円也				
(イ) 教育点呼	三十円	(ロ) 体育奨励費	二十円		
(ハ) 教員講習会費	十五円	(ニ) 学事奨励費	十二円		
(ホ) 教育委託費	二十円也				
臨時部					
(A) 営繕土木費	一百五十円也				
(イ) 営費	一百五十円也				
(ロ) 堆肥舎建築費	一百五十円也				

(山上公学校要覧)

昭和三年四月調

山上公学校要覧

山上公学校要覧

昭和三年四月調

一、位置

台南州新化郡山上庄山上三五〇番地

二、創立年月日

明治四十年十一月二十四日

三、教育勅語奉戴年月日

明治四十二年四月二十日

四、沿革ノ大要

一、明治四十年十一月二十四日大目降公学校山仔頂分校トシテ設立認可

一、全四十一年一月四日仮校舎ニ於テ授業開始

一、全四十三年一月四日本校舎新築竣工移転

一、大正六年四月一日山仔頂分校トシテ独立認可

一、大正十年四月二十四日地方制度改正ニ依リ山上公学校ト改称

一、大正十二年四月一日大社分教場設立

一、大正十四年十月十日大社分教場廃止合併

五、校訓

忠良ナル農民タルベシ

勉強ニ向上
勤勉ニ生産
運動ニ慰安

六、歴代校長

分校主任	長嶺牛清	自明治四〇、一二、二八 至全 四三、九、一〇	二、九	下營公学校長
大野石太郎	自明治四三、九、一〇 至大正二、八、一九	二、一一	伊予中学校教諭	
笠原憲一郎	自大正二、八、一九 至大正五、三、三一	二、七	死亡	
加藤虎太郎	自大正五、四、一 至大正六、三、三一	一、〇	龍井第一公学校長	
本田四郎	自大正六、四、一 至大正八、七、八	二、三	麻豆公学校長	
有馬為雄	自大正八、七、八 至大正一〇、四、三〇	一、九	民雄公学校長	
栗原謙一郎	自大正一〇、四、三〇 至昭和二、三、三一	五、一一	依願免官内地帰省	
平川貞夫	自昭和二、四、一 至昭和六、三、二六	四、〇	麻豆公学校訓導	

七、学校関係者

官職	氏名
台南州知事	片山三郎
台南州内務部長	猪股松之助
台南州教育課長	青木健一
新化郡守	猪口誠
新化郡庶務課長	津田健治
台南州視学	長谷川榮

台南州視学 新化郡視学 山上庄長 学校医	鈴木章良 大澤治重 楊清桂 梁道
-------------------------------	---------------------------

八、職員

官職 俸給 族称	氏名	生年月日	勤続 年月	担任 学級 年	研究 科目 分掌	出身別
校長 六三	長崎 平川貞夫	明治三五、六三	一〇	五 五六	修身 庶務	台北師範学校甲科
訓導 五〇	台南 林文里	全三七、二二、四三、〇	四	三四	歴史 綴方 教務	台南師範学校本科
訓導 四八	林開 發	全三七、二二、三〇	二	一	図画 体操 會計	全
訓導 四四	方虎	全三九、四、一	一	一	読方 農具 器具	講習科
准訓 四五	田萬 枝	全三六、一七	九、一	三	唱歌 漢文 統計	全

九、創立以来卒業児童

年度別 性別	男	女	計	年度別 性別	男	女	計
大正三年度	一一	一	一二	大正五年度	一一	一	一二
大正四年度	七	一	八	大正六年度	六	一	七
大正七年度	一三	一	一四	大正十三年度	一七	一	一八
大正八年度	一五	一	一六	大正十四年度	三一	一	三二
大正九年度	一六	一	一七	昭和元年度	三〇	四	三四
大正十年度	一二	一	一三	昭和二年度	一九	二	二一
大正十一年度	一三	一	一四	昭和三年度	一二五	九	一三四
大正十二年度	一四	三	一七	累計	一二五	九	一三四

備考 大正六年度以前卒業者二十九名ハ大目降公学校山仔頂分校時ニ卒業セシモノナリ

一〇、卒業生状況調

上級学校在学中ノモノ	一〇	中学校一人 工業学校一人 補習学校五人 高等科三人
農業ニ従事スルモノ	二二八	田畑自作九〇人 全小作三八人
工業ニ従事スルモノ	一	理髮一人
商業ニ従事スルモノ	一二	雜貨商五人 藥種商二人 其他五人
官庁又ハ公務ニ就職ノモノ	九	役場 保甲 水道 其他
学校教員タルモノ	五	訓導二人 准訓導三人
銀行又ハ会社ニ就職ノモノ	一三	銀行一人 組合三人 会社九人
他家ニ雇ハレタルモノ	九	藥局生二人 店員其他七人
家事ニ従事スルモノ	一八	
職業未定又ハ不詳ノモノ	一五	
死亡	一四	
計	二三四	

出席				操行				学業				種別 学年別
計	女	男	丁	丙	乙	甲	丁	丙	乙	甲	性別	性別
八二、六二	七〇、一八	八三、六七	、	六	四三	五	八	一八	一八	一〇	第一学年	第一学年
八〇、〇一	六八、六〇	八一、九四	、	二	三一	五	三	八	二二	五	第二学年	第二学年
六九、三一	六〇、七〇	七二、〇七	、	一一	一九	五	五	一五	一二	三	第三学年	第三学年
七二、六八	六三、四一	七四、二五	、	七	一八七	三	六	一六	三	三	第四学年	第四学年
七二、八〇	八一、三〇	七二、四一	、	四	一五	三	二	七	一〇	三	第五学年	第五学年
七四、四〇	八五、〇〇	七三、六二	、	、	一五	七	一	一〇	七二	四	第六学年	第六学年
七六、二六	五一、二五	八〇、八五	、	、	三〇	一四一	二八	二五	七四	七二	計	計
											摘要	摘要

一一、前年度児童成績

原級ニ留ム児童数	卒業又ハ修業児童	本年度未児童数	本年度死亡児童	本年度退学児童	本年度入学児童数	本年度初児童数	種別 学年別
女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	性別
一七	三	四三	五〇	、	二九	五一	第一学年
、	三	三一	三四	、	九	二	第二学年
二	三	二四	二七	、	七	一四	第三学年
、	六	一九	二五	、	八	七	第四学年
、	二	一八	二〇	、	一	、	第五学年
、	二	一九	二〇	、	一八	、	第六学年
三	二〇	二六	、	二七	、	、	計
							摘要

一一、前年度児童異動

一三、学齡児童及就学状況

種別	ノモルタシ達ニ期始ノ学就ニ既																大字別																				
	計		公学校ノ教科ヲ修ムルモノ		公学校ノ教科ヲ了ヘタルモノ		計		修メザルモノ		第一学年ニテ退学シタルモノ		第二学年ニテ退学シタルモノ		第三学年ニテ退学シタルモノ			第四学年ニテ退学シタルモノ		第五学年ニテ退学シタルモノ		第六学年ニテ退学シタルモノ		計		未ダ就学ノ始期ニ達セザルモノ		通計		既ニ就学ノ始期ニ達シタルモノノ百分比		計					
性別	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計				
山上	二二	二〇	二七	三	一四	二	一五	八	一五	一五	一五	一五	八	一五	一五	九	八	五	五	一	三	五	一	九	二〇	三	三	二八	二	一〇	二	六	一〇	三六			
牛欄埔	三	一	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇	四			
北勢洲	一六	一	一	一	一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	〇	六		
潭頂	二〇	一	一五	一	二五	一	一	二	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八	〇	
大社	一〇	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四	六	
計	一六〇	二二	四三	二五	二五	一九	二八	二六	二五	二五	二五	二五	二八	二五	二五	二九	二六	二七	二五	二一	二六	二四	二一	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

一四、前年度施設事項

1. 教授
児童文庫設置 成績品展覧会 国語使用奨励 学芸会
2. 訓練
出席奨励 父兄会 礼儀作法指導
3. 養護
体育奨励 身体清潔検査
4. 社会教化
補習教育 月例会 国語普及会
- 一六、設備及経費
○校地総面積 二一三四坪
×農業実習地 四二〇坪
○校舍 一五一坪
普通教室六 事務室一 便所一
物置一 堆肥舎一
職員宿舎 三戸（三四坪）
（欄外）空地
経費総額二四六四円
經常費一六一四円
需用費八一五円
修繕費 八〇円
体育奨励費一〇円
学事奨励費一〇円
臨時費八五〇円
校舎修繕費七〇〇円
堆肥舎建築費一五〇円
雑給雜費三〇五円
借地借用料三〇円
教育講習会費二五円
補習教育費三九円
旅費二七〇円

一七、本年度学級編制

学級 性別	性別		計
	男	女	
第一学級	二七	一二	三九
第二学級	二七	一三	四〇
第三学級	四五	三	四八
第四学級	五七	九	六六
第五学級	三三	三	三六
計	一八九	四〇	二二九

一八、創立以来出席歩合累年比較表

年度別	性別		年度別	性別
	男	女		
明治四十二年度	五六、二〇	七〇、二〇	大正六年度	八八、七一
全 四十三年度	六四、五八	三八、三三	大正七年度	八五、三九
全 四十四年度	七七、〇七	七六、〇〇	大正八年度	八五、一五
大正元年度	八四、一六	八二、九六	大正九年度	八八、一二
大正二年度	八四、二八	七七、〇一	大正十年度	八八、九八
大正三年度	八五、八九	八七、四六	大正十一年度	八一、二三
大正四年度	八六、九五		大正十二年度	八一、四〇
大正五年度	九〇、三三		大正十三年度	八一、一六
大正十四年度	八〇、六〇	七二、三五	昭和二年度	八〇、八五
昭和元年度	七九、五一	七二、一二		五一、二五

一九、創立以来入学状況累年比較

年度別	性別		年度別	性別
	男	女		
全 四十二年度	五四	五	大正七年度	五九
全 四十三年度	二六	一	大正八年度	六一
全 四十四年度	三九		大正九年度	九八
大正元年度	四七	七	大正十年度	一四八
大正一年度	三一		大正十一年度	六五
大正二年度	三五		大正十二年度	七〇
大正三年度	三六		大正十三年度	三三
大正四年度	四四		大正十四年度	五四
大正五年度	四八	二	大正十五年度	四五
昭和二年度	五一	四	昭和三年度	五三

二〇、創立以来累年学級及児童数

年度別	学級	児童数		年度別	学級	児童数	
		男	女			男	女
明治四十一年度	二	八三		大正七年度	四	一六一	一五
全 四十二年度	二	一一二	五	大正八年度	五	一六九	二五
全 四十三年度	二	五九	一	大正九年度	六	二四六	一八
全 四十四年度	二	七八	一	大正十年度	八	三〇一	五四
大正元年度	二	九四	八	大正十一年度	八	三三三	五八
大正二年度	二	九八	四	大正十二年度	八	二八七	五二
大正三年度	二	一〇〇	二	大正十三年度	八	二六八	七六
大正四年度	二	一〇五		大正十四年度	六	二三七	四六
大正五年度	二	一〇六		昭和元年度	六	二四四	六〇
昭和元年度	五	一八九	四〇	昭和二年度	五	二三二	四七

二二、既定行事

1. 毎日

朝会 教授準備 児童看護 掃除監督及検閲
 教案調製 担任学級及学科教務整理 分掌事務整理
 出席督励

2. 毎週

服装検査 学用品検査 職員会 大掃除
 校庭整理

3. 毎月

研究授業 教材研究 体操会

4. 毎学期

成績交換考查 学芸会

二三、学校衛生附身体検査状況

地方病タルマラリヤニ犯サル、モノトラホーム血膜炎等ニ罹レル
 モノ相当ニ多キヲ以テ之レニ対シ処置ヲ必要ト認メタリ

前年度施行身体検査結果左ノ如シ

受検人員一九四人ニ対シ

1、発育 甲四一 乙六二 丙九一

2、栄養 甲五四 乙五五 丙八五

3、トラホーム 重、中、軽症合シテ一一二

4、脾腫 一八

5、寄生虫 二〇

6、歯牙 五二

7、其他 六

二三、土地ノ状況

当校設置区域ハ郡所在地ノ東西二位シ東西二里三十町南北二里
 アツテ北ハ曾文溪ニ沿ヒ西ハ坦平ナル平野ヲ有スレドモ東南二方
 ハ丘陵起伏シテ交通ノ便ヲ阻シ文明輸入ノ門戸ヲ妨ゲラル、ヲ以
 テ一般ノ文化ニ後レ從テ向学ノ心モ甚ダ乏シ 土地ハ畑多ク水田少
 キヲ以テ多数ハ甘蔗甘諸米其他雑穀ノ農業ニ従事シ民風ハ概シテ
 質朴ニシテ富ノ程度マタ低キナリ

二四、地方向学心発達ノ状況

当庄ハ実ニ文化ノ程度低ク外界ノ刺激ヲ受クル機会少キヲ以テ中
 ニハ教育ノ必要ヲ感知スルコト鈍キガ如ク就学勧誘ノ時ニテハ強
 制的背景強要的手段ニアラザレバ功ヲ奏スル能ハザルガ如キ憐レ
 ムベキ状況ナリ 自由意志ニヨリ真ニ自分等ノ文化ヲ高メ自己ノ
 子弟ノ向上発達ヲ祈ル底⁽³⁾ノ心懸ナク只ニ眼前ノ牛飼ヒ豚追ヒ等ノ
 如キ小利ニ汲々タル如ク見ユ 然リト虽モ要スルニ時間ノ問題ニ
 シテ吾人ハ熱誠ヲ以テ事ニ臨ミ奨励努力宜シキヲ得レバ或ル程度
 ニ於テ彼レ等ノ頑迷ナル農民ヲシテ学校教育ヲ理解セシメ向学心
 ヲ増進セシムルコトヲ期シテ待ツベシ

学 校 概 况

校名		歷代校長		及沿革大要	
校名	歷代字校長	主任 長嶺牛清	自明治四〇、二二六 至「四三、九一〇	主任 大野石太郎	自明治四三、九一〇 至大正二、八一九
	在職年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
動続	年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
	年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
校名	歷代字校長	主任 加藤虎太郎	自大正五、四一 至「六、三三一	主任 原憲一郎	自大正二、八一九 至「五、三三一
	在職年月	一年	一年	一年	一年
校名	歷代字校長	主任 有馬為雄	自大正八、七七八 至「一〇、四三〇	自大正二、四三〇 至昭和二、三三一	自大正二、四三〇 至昭和二、三三一
	在職年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
校名	歷代字校長	主任 本田四郎	自大正六、四一 至「八、七七八	自大正八、七七八 至「一〇、四三〇	自大正二、四三〇 至昭和二、三三一
	在職年月	一年三月	一年三月	一年三月	一年三月
校名	歷代字校長	主任 栗原謙一郎	自昭和二、四一 至昭和二、三三一	自昭和二、四一 至昭和二、三三一	自昭和二、四一 至昭和二、三三一
	在職年月	五年十一月	五年十一月	五年十一月	五年十一月
校名	歷代字校長	主任 平川貞夫	自昭和二、四一 至「六、三二六	自昭和六、三二六 至「九、四三〇	自昭和九、四三〇 至「一二、五三三
	在職年月	四年	四年	四年	四年
校名	歷代字校長	主任 檜垣研一	自昭和六、三二六 至「九、四三〇	自昭和九、四三〇 至「一二、五三三	自昭和一二、五三三 至「一五、六三六
	在職年月	三年一月	三年一月	三年一月	三年一月
校名	歷代字校長	主任 佐美力雄	自昭和九、四三〇 至「一二、五三三	自昭和一二、五三三 至「一五、六三六	自昭和一五、六三六 至「一八、七三九
	在職年月	一年十一月	一年十一月	一年十一月	一年十一月
校名	歷代字校長	主任 中島深	自昭和九、四三〇 至「一二、五三三	自昭和一二、五三三 至「一五、六三六	自昭和一五、六三六 至「一八、七三九
	在職年月	四年一月	四年一月	四年一月	四年一月
校名	歷代字校長	主任 樋口嘉雄	自昭和五、四一〇 至民國卅四、一、三	自民國卅四、一、三 至民國卅五、四一〇	自民國卅五、四一〇 至民國卅六、七一五
	在職年月	五年七月	五年七月	五年七月	五年七月
校名	歷代字校長	主任 陳崑山	自民國卅五、四一〇 至民國卅九、一、一五	自民國卅九、一、一五 至民國卅九、一、一五	自民國卅九、一、一五 至民國卅九、一、一五
	在職年月	四年七月	四年七月	四年七月	四年七月
校名	歷代字校長	主任 李知己	自民國卅九、一、一六 至民國四二、二、廿八	自民國四二、二、廿八 至民國四三、三、一	自民國四三、三、一 至民國四四、三、一
	在職年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
校名	歷代字校長	主任 劉聯祥	自民國四三、三、一 至民國四四、三、一	自民國四四、三、一 至民國四五、三、一	自民國四五、三、一 至民國四六、三、一
	在職年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
校名	歷代字校長	主任 王萬全	自民國四三、三、一 至民國四四、三、一	自民國四四、三、一 至民國四五、三、一	自民國四五、三、一 至民國四六、三、一
	在職年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
校名	歷代字校長	主任 林士楷	自民國四三、三、一 至民國四四、三、一	自民國四四、三、一 至民國四五、三、一	自民國四五、三、一 至民國四六、三、一
	在職年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
校名	歷代字校長	主任 黃勝祥	自民國四三、三、一 至民國四四、三、一	自民國四四、三、一 至民國四五、三、一	自民國四五、三、一 至民國四六、三、一
	在職年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
校名	歷代字校長	主任 謝瑞仁	自民國四三、三、一 至民國四四、三、一	自民國四四、三、一 至民國四五、三、一	自民國四五、三、一 至民國四六、三、一
	在職年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月
校名	歷代字校長	主任 王茂發	自民國四三、三、一 至民國四四、三、一	自民國四四、三、一 至民國四五、三、一	自民國四五、三、一 至民國四六、三、一
	在職年月	一年九月	一年九月	一年九月	一年九月

Historical Documents of Yamakami Common School: A Step toward Rebuilding Educational History of Colonial Taiwan

Kae KITAMURA*

*Hokkaido University, Graduate School of Education, Assoc.Prof

Key Words

History of local communities, educational history of Japanese Empire, historical school documents, colonialization/decolonization, Tainan

Abstract

This volume is reprinting of historical school documents selected from historical archives of Municipal elementary schools, located in Tainan city, Taiwan. We hope that publishing these documents will contribute to (re)constructing the historical open resources for Taiwan area studies and historical studies of Japanese Empire.

This work focuses on eight branch schools of Shinka common school which was reported in our previous work. The perspective that encompasses all of the branch schools over the wide areas would be a better way to reconstruct the process of expansion of the public school under the Japanese rule, beyond individual school histories.